令和７年度（令和６年度対象）

# 教育委員会点検・評価報告書

令和７年８月

伊達市教育委員会

もくじ

1　はじめに
(1) 趣旨 …… 1
(2) 点検・評価の対象
(3) 点検・評価の方法と評価区分
(4) 点検・評価結果の構成

2　教育委員会の活動状況 …… 3
(1) 教育委員会による点検
○令和６年度教育委員会活動一覧
(2) 項目別点検
①教育委員会会議
②視察・学校訪問
③各種市内行事、会議・研修会等への参加
④広報活動
⑤パブリックコメントの実施について

3　「第２次伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価 … 10
(1) 学校教育
①社会を生き抜く力を育む教育の推進
②豊かな心を育む教育の推進
③健やかな体を育む教育の推進
④地域とともにある学校づくりの推進
⑤信頼される教育環境の整備
(2) 社会教育
①ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進
②共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進
(3) 歴史・文化芸術
①特色ある地域文化の推進
②歴史文化を活かしたまちづくりの推進
(4) スポーツ
①豊かな心身を育むスポーツの振興
(5) 達成度評価一覧

4　外部評価 …… 77

## １　はじめに

### ⑴ 趣旨

平成19年６月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成20年４月１日施行)、各教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出・公表することとされました。

そこで、伊達市教育委員会では、平成20年度から、法改正の趣旨である、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆さまへの説明責任を果たすため、学識経験者の知見を活用した教育委員会活動の点検・評価を実施しています。

### ⑵ 点検・評価の対象

点検･評価の対象は、第２次伊達市教育振興基本計画に掲げられた「取り組むべき主な施策」とし、その進捗管理を各実施事業の点検・評価結果を踏まえて行っています。

### ⑶ 点検・評価の方法と評価区分（取り組むべき主な施策ごとの評価について）

点検･評価にあたっては、令和６年度に実施した事業･取組の状況を明らかにするとともに、今後における課題と対応方向を示し、達成・完了しているものを「Ａ」、達成に向け進捗中のものを「Ｂ」、着手したが遅延しているものを「Ｃ」、未着手のものを「Ｄ」、事業実施ができない等の理由により評価不可のものを「－」として表示しました。

また、点検･評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方から意見、助言をいただきました。

### ⑷ 点検・評価結果の構成

**①施策（取り組むべき主な施策）**

第２次伊達市教育振興基本計画の目標に定めた、重点的に取り組む施策（31項目）です。

**②推進方策および今年度の取組内容**

施策の分析を行い、抽出した課題解決のための推進方策および令和６年度に実施した主な事業（取組）内容と実施状況を示しています。

**③施策の目標設定における取組状況・評価**

取り組むべき主な施策の推進にかかる目標設定における取組状況の記載と取組への評価を示しています。

**④施策に対する達成度評価**

令和６年度における事業（取組）の実施状況などを踏まえるとともに、目標設定における取組状況・評価とも照らし合わせた評価を行っています。また、今後の事業（取組）を進める上での課題と対応方針を示しています。

なお、取り組むべき主な施策の評価が「－」（評価不可）の場合にも、その理由等を記載しています。

【参考】　地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## ２　教育委員会の活動状況

令和６年度の教育委員会の活動について、「教育委員会会議」「教育施設訪問」などの項目に分け、教育委員会自身による点検を行いました。

### (1) 教育委員会による点検

教育委員会会議については、毎月１回、開催する定例会と、必要に応じて開催する臨時会があり、教育に関する様々な案件について検討し議決を行いました。

定例会については、開催予定や傍聴の案内、会議録等をホームページに掲載しました。また、定例会の開催に合わせて市内の教育施設を訪問しました。

議案、協議事項の審議及び報告については厳正に行われました。また、委員からの情報提供や事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局の間で意見交換が活発に行われました。さらに、必要に応じて事案の調査、研究、協議及び周知等を行うための委員協議会が開催されました。

以下、令和６年度の主な活動を示し、それぞれの活動内容について報告します。

**〇令和６年度教育委員会活動一覧**

| | |
|---|---|
| ４月25日（木） | 定例会 |
| ５月23日（木） | 定例会<br>委員協議会 |
| ６月27日（木） | 定例会<br>委員協議会 |
| ７月18日（木） | 定例会<br>委員協議会 |
| ８月29日（木） | 定例会 |
| ９月26日（木） | 総合教育会議<br>定例会 |
| 10月24日（木） | 定例会 |
| 11月21日（木） | 定例会<br>委員協議会 |
| 12月19日（木） | 定例会<br>委員協議会 |
| １月23日（木） | 定例会<br>委員協議会 |
| １月30日（木） | 臨時会 |
| ２月13日（木） | 定例会 |
| ３月27日（木） | 総合教育会議<br>定例会 |

### (2) 項目別点検

#### ①教育委員会会議

**ア　議案について**

「伊達市教育委員会事務委任規則」第２条により、教育長に対する事務委任は、次の各号に掲げるものを除き（次に掲げる事項は教育委員会会議での議決が必要）、その権限に属する事務を教育長に委任すると定められています。

また、第３条により、教育長の臨時代理は、第２条各号に掲げる事務（同条第２号に掲げる事務を除く。）について、緊急に処理する必要があり、かつ、教育委員会の会議を開くいとまがないと認められるときは、これを臨時に代理することができ、臨時代理したときは、その旨を直近の教育委員会の会議において報告しなければならないと定められています。

（１）　教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針を決定すること。
（２）　教育委員会規則及び教育委員会の定める訓令を制定し、又は改廃すること。
（３）　教育予算その他議会の議決を経るべき事件の議案について意見を市長に申し出ること。
（４）　教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関を設置し、又は廃止すること。
（５）　附属機関の委員を任免すること。
（６）　教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
（７）　特別支援教育推進委員会委員、スポーツ推進委員を委嘱すること。
（８）　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること。
（９）　請願、陳情等を処理すること。
(10)　附属機関に対して重要な諮問をすること。
(11)　学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又は変更すること。
(12)　市文化財を指定し、又は解除すること。
(13)　１件の予定価格100万円以上の教育財産の取得を市長に申し出ること。
(14)　１件の予定価格100万円以上の工事の計画を策定すること。
(15)　長の補助機関たる職員若しくは長の管理に属する行政機関の長に教育委員会の権限に属する事務の一部を委任し、又は補助執行させること。
(16)　長の権限に属する事務の一部を教育委員会に委任すること又は教育委員会の補助機関たる職員に補助執行させることに関する協議に対し同意等をすること。

上の表に従い、令和６年度の教育委員会会議にかけられた議案等について、それぞれがどの事項に該当するか、あらためて整理し、その妥当性、効率性といった観点から点検を行いました。

以下の表中右列の数字は、上の表の(１)～(16)の中から該当する番号を当てはめたものです。また、「その他」については、関係例規の規定に基づき審議すべき事案となっているもののほか、全体の場で検討、共通理解を図る必要があると判断されたものです。

また、議事終了後、各担当課による報告・協議が行われ、事業の実績・予定報告や付議前の案件の事前説明、今日的な教育課題への対応策等について共通理解を図るとともに、活発な意見交換を行いました。

令和６年度の議案等については、規則に則って、適切に付議されています。

４月定例会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 議案第１号 | 伊達市立学校運営協議会委員の任命について | （５） |
| 報告第１号 | 臨時代理の報告について（令和５年度伊達市一般会計補正予算（教育費関係予算）について） | （３） |
| 報告第２号 | 臨時代理の報告について（伊達市教育委員会事務局職員等の令和６年４月１日付人事異動について） | （６） |

５月定例会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 議案第１号 | 伊達市立学校運営協議会委員の任命について | （５） |
| 議案第２号 | 伊達市特別支援教育推進委員会委員の委嘱について | （７） |
| 議案第３号 | 伊達市特別支援教育推進委員会への諮問について | (10) |
| 議案第４号 | 令和６年度伊達市一般会計補正予算（教育費関係予算）について | （３） |

５月委員協議会

| 番　号 | 案　　件 |
|---|---|
| 協議第１号 | 伊達市立図書館基本設計について（中間報告） |

６月定例会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 議案第１号 | 伊達市指定文化財の指定等に係る伊達市文化財審議会への諮問について | (10) |

６月委員協議会

| 番　号 | 案　　件 |
|---|---|
| 協議第１号 | 伊達市立図書館基本設計について |

７月定例会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 議案第１号 | 伊達市指定文化財の指定等について | (12) |

７月委員協議会

| 番　号 | 案　　件 |
|---|---|
| 協議第１号 | 教育委員会の点検・評価について |

８月定例会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 議案第１号 | 令和７年度から使用する小学校用教科用図書の採択について | その他 |
| 議案第２号 | 教育委員会の点検・評価について | （８） |
| 議案第３号 | 伊達市放課後児童クラブ設置条例の一部を改正する条例 | （３） |
| 議案第４号 | 伊達市放課後児童対策事業運営負担金徴収条例の一部を改正する条例 | （３） |
| 報告第１号 | 臨時代理の報告について（令和６年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載同意について） | その他 |
| 報告第２号 | 臨時代理の報告について（伊達市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則について） | （３） |

９月定例会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 指定第１号 | 教育長職務代理者の指定について | その他 |

10月定例会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 議案第１号 | 伊達市立学校学校医等表彰規程に基づく被表彰者の決定について | その他 |
| 議案第２号 | 伊達市立学校運営協議会委員の任命について | （５） |

11月定例会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 議案第１号 | 令和６年度伊達市一般会計補正予算（教育費関係予算）について | （３） |

11月委員協議会

| 番　号 | 案　　件 |
|---|---|
| 協議第１号 | 伊達市立図書館実施設計等について |

12月定例会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 議案第１号 | 令和６年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載同意について | その他 |
| 報告第１号 | 心身障がい児童生徒の適正就学について | その他 |
| 報告第２号 | 令和７年度教育行政推進に関する予算について | その他 |

12月委員協議会

| 番　号 | 案　　件 |
|---|---|
| 協議第１号 | 伊達市立図書館等の整備について |

１月定例会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 議案第１号 | 伊達市立学校学校医等表彰規程に基づく被表彰者の決定について | その他 |
| 議案第２号 | 伊達市立学校教育実践表彰規程に基づく令和６年度の被表彰者の決定について | その他 |
| 議案第３号 | 教育長の辞職の同意について | （６） |
| 報告第１号 | 令和７年度教育行政推進に関する予算について | その他 |

１月委員協議会

| 番　号 | 案　　件 |
|---|---|
| 協議第１号 | 令和７年度教育行政執行方針（案）について |

１月臨時会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 議案第１号 | 教育長の辞職の同意について | （６） |

２月定例会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 議案第１号 | 令和７年度だて歴史の杜食育センター運営計画について | （１） |
| 議案第２号 | 伊達市立学校管理規則の一部を改正する規則 | （２） |
| 議案第３号 | 令和６年度伊達市一般会計補正予算（教育費関係予算）について | （３） |
| 議案第４号 | 令和７年度教育行政執行方針について | （１） |

| | | |
|---|---|---|
| 報告第１号 | 令和６年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査における伊達市の状況について | その他 |
| 報告第２号 | 臨時代理の報告について（工事請負契約の締結について） | （３） |

３月定例会

| 番　号 | 案　　件 | 該当 |
|---|---|---|
| 議案第１号 | 伊達市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部を改正する規則 | （２） |
| 議案第２号 | 伊達市教育委員会特定事業主行動計画（道費負担教職員用）の策定について | （１） |
| 議案第３号 | 伊達市立学校運営協議会委員の任命について | （５） |
| 報告第１号 | 令和６年度伊達市学力テストの結果について | その他 |
| 報告第２号 | 臨時代理の報告について（伊達市立学校職員の令和７年４月１日付人事異動について） | （６） |
| 報告第３号 | 臨時代理の報告について（伊達市教育委員会事務局職員等の令和７年４月１日付人事異動について） | （６） |

**イ　議事について**

条例や規則改正、各種委員の承認等、事務的な手続によるもの以外については、各委員とも高い関心と問題意識を持った積極的な発言がありました。

また、説明や資料提示の方法等を含めたメリハリのある議事運営に努めるとともに、情報提供等の活用により、スムーズに議事が進行されました。

**②視察・学校訪問**

教育委員会会議の開催に合わせて、令和６年度については、下記のとおり学校訪問を行いました。

・令和６年８月29日　伊達小学校

**③各種市内行事、会議・研修会等への参加**

市内小中学校の入学式・卒業式等に、教育長、各委員が伊達市教育委員会を代表して出席しました。

また、各種会議・研修会等に各委員が出席しました。会議等の主なものは次のとおりです。

・令和７年２月６日

会議名　令和６年度胆振管内教育委員会委員研修会（登別市）

**④広報活動**

定期的に行っている教育委員会会議をはじめ、教育委員会の活動についての情報は、ホームページにより公開しました。今後もより一層市民の理解と協力を得るため、広報紙やホームページ等を活用していきます。

**⑤パブリックコメントの実施について**

令和６年度においては、パブリックコメントの実施はありませんでした。

## ３　「第２次伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

計画で掲げた取り組むべき主な施策、推進方策に基づいて実施した事業及び取組について、各主管課及び教育委員会による内部評価を行い、今後の課題と対応方針を示しました。

### （１）学校教育

| 第1章 | 学校教育 | 第1節 | 社会を生き抜く力を育む教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策1 | 確かな学力の育成 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

**１　推進方策および今年度の取組内容**

| | | |
|---|---|---|
| ●基礎・基本の確実な定着 | | |
| ・「伊達市学力テスト」を実施することにより、児童生徒の学力や学習状況を把握するとともに、「学力・学習改善プラン」を作成し、一人一人の基礎や基本の確実な定着を目指す。 | | |
| 主な取組内容 | R6 | 伊達市学力テストの調査結果等に基づいた学力・学習改善プランの作成とAIドリルの全児童生徒の活用、検定費用の補助 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |
| ●「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 | | |
| ・これまでの教育実践の蓄積に基づく授業改善の活性化により、子どもたちの「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力の育成を図り、一人一人の生きる力を育む。 | | |
| 主な取組内容 | R6 | 伊達市教育実践交流・研修会の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |
| | | |
| | | |
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |
| | | |
| | | |
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |
| | | |
| | | |
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **◎「国語の授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合** | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教前期課程 | 78.0% | 80.9% | 85.5% | | | | 86.0% | a | 全国学力・学習状況調査 |
| 中学校及び義務教後期課程 | 80.3% | 89.4% | 88.7% | | | | 86.0% | a | 全国学力・学習状況調査 |
| **◎「算数（数学）の授業の内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合** | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教前期課程 | 81.9% | 83.4% | 77.9% | | | | 86.0% | c | 全国学力・学習状況調査 |
| 中学校及び義務教後期課程 | 76.4% | 68.4% | 77.5% | | | | 80.0% | b | 全国学力・学習状況調査 |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| B | 小学校の国語と中学校の数学は目標や昨年度（R5　国語　小学校　80.9%、数学　中学校　68.4%）を上回っているが、それ以外は昨年度（R5　国語　中学校　89.4%、算数　小学校　83.4%）を下回っていることから、この評価とした。 |

| 取組を進める上での課題と対応方針 |
|---|
| 児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ICTを最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進する授業改革につなげる。<br>また、AIドリルを活用して授業や家庭学習の質の向上につなげる。 |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 1 | 3 | 学力向上推進経費事業 | 13,994 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第1節 | 社会を生き抜く力を育む教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策2 | 特別支援教育の充実 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●関係機関と連携した地域ネットワークづくりの充実

・伊達市特別支援教育推進協議会を実施し、学校や保育所、幼稚園等の関係機関が、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた適切な就学の場を提供するために、連携の充実を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 伊達市特別支援教育推進委員会の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な就学支援

・伊達市特別支援教育推進協議会の各支援部会において新就学児および在校児童生徒一人ひとりに応じた就学の場を検討するとともに、特別支援教育支援員・介護員の配置により、児童生徒の学習支援や生活支援を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 伊達市特別支援教育推進委員会支援部会の実施及び特別支援教育支援員・介護員の配置 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

● 教育相談の充実

・特別支援コーディネータ連絡会議における研修等により、校内特別支援コーディネータの知識等の向上を図り、教育相談の質の向上を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 特別支援コーディネータ連絡会議において、教育相談に係る研修を実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎通級指導教室及び特別支援学級において個別の教育支援計画を作成し、就学先や進学先等への引継ぎに活用している学校の割合 | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教前期課程 | 30.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 学校への聞き取り調査 |
| 中学校及び義務教後期課程 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 学校への聞き取り調査 |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | 通級指導教室及び特別支援学級に在籍するすべての児童生徒に対し、それぞれ個別の教育支援計画を作成し、就学先や進学先等への引継ぎに活用していることから、この評価とした。 |

| 取組を進める上での課題と対応方針 |
|---|
| 昨年同様、具体的な短期目標、長期目標を「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に設定することでそれらを日常的に活用し、障がいのある児童生徒の適正な就学措置や効果的な指導に活かしていく。また、校種間における連携を大切にし、個別の教育支援計画等の円滑かつ効果的な引継ぎを行うなど切れ目のない支援を目指し、教育的ニーズに応じた教育支援を行っていく。 |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2 | 2 | 2 | 特別支援教育推進事業（職員給与費） | 49,829 | | |
| | 9 | 1 | 4 | 特別支援教育推進委員会運営経費 | 708 | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第1節 | 社会を生き抜く力を育む教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策3 | 国際理解教育の推進 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●外国語指導力の充実

・小学校中学年の外国語活動、高学年の外国語科の指導に向けて、小中学校の教職員が連携を深めるなど、指導力の向上に努める。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | ALTとの連携及び効果的な活用による、指導方法の工夫・改善 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●異文化理解の充実

・ALT等ネイティブスピーカーとの交流活動や共同生活、英語を用いた体験活動を行う「だてっ子イングリッシュアドベンチャー」を通じて、子どもたちが語学教育だけでなく、外国の文化や習慣に触れられるなど国際理解教育の充実に取り組む。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | イングリッシュアドベンチャー及びイングリッシュデイの実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎伊達市学力テストにおける外国語の伊達市全体の平均点が全国平均を上回る | | | | | | | | | |
| 中学校及び義務教後期課程 | － | やや下回る | 下回る | | | | 全国平均以上 | d | 伊達市学力テスト |
| | | | | | | | | | |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| C | 伊達市学力テスト結果において全国と比べ、1年生▲9.9，2年生▲4.7となっており、全国平均を下回っていることから、この評価とした。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 全国平均を下回っており、「学力・学習改善プラン」の作成及び継続した指導方法の工夫改善が必要。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 1 | 6 | ネイティブスピーカー活用事業 | 24,150 | | |
| | 9 | 1 | 6 | だてっ子イングリッシュ・アドベンチャー事業 | 1,564 | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第1節 | 社会を生き抜く力を育む教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策4 | 情報教育の充実 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●「情報モラル」の育成に向けた取組の充実

・児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、情報手段を適切に活用できるようにするための学習活動に取り組むとともに、情報機器を利用する際の情報モラルを身に付けさせる学習の充実を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 各教科等による情報モラルの育成に向けた学習活動の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●「プログラミング的思考」などを育むプログラミング教育の充実

・児童生徒一人ひとりに情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度が育まれるよう、GIGAスクール構想に基づく整備を行うとともに、発達段階に応じたプログラミング教育の充実を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 一人1台端末を活用した学習活動に関する研修の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎「情報通信技術を活用して、子ども同士が教え合い学び合うなどの学習や課題発見・解決型の学習指導の実施」について「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した学校の割合 | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教前期課程 | 77.7% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 学校への聞き取り調査 |
| 中学校及び義務教後期課程 | 66.7% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 学校への聞き取り調査 |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | 課題発見・解決型の学習は、すべての学校において継続して実施していることから、この評価とした。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 情報活用能力の育成や情報モラルの指導、情報機器活用のマナーなどネットトラブルの未然防止に向けた指導を繰り返し実施する。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 1 | 3 | 学力向上推進経費 | 13,994 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第1節 | 社会を生き抜く力を育む教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策5 | キャリア教育の充実 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

● 学級や学校での生活づくりに主体的にかかわり、自己を生かそうとする活動の充実（小学校及び義務教育学校前期課程）

・学級や学校生活における様々な課題を解決するために、実現可能で具体的な目標を立てたり意思決定したりし、自己の良さを生かした主体的な活動を充実させ、現在や将来に希望や目標を持ち、日々の生活に生かしていこうとする態度を養う。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | キャリア教育全体計画に沿った、発達段階に応じて児童生徒個々のキャリア発達を促す取組 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●学ぶことと働くことの意義を理解して学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるよう、職場見学や職業体験の充実（中学校及び義務教育学校後期課程）

・生き方や希望する進路、職業の情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考え、主体的に選択・決定したり体験したりする活動を充実させ、自己実現に向けて目標を立てて計画的に取り組む態度や肯定的な自己理解を育む。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 職場見学や職業体験、職業座談会の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

● 学びの過程を記述し振り返ることができる仕組みの構築

・児童生徒が自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら主体的に学習活動に取り組めるよう、自らの学びを見通したり、自己の変容や成長を振り返ったりする活動の充実を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 学習活動の節目や単元や学習の終末における、自己の変容を振り返る取組 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

● 市内の事業所や関係機関と連携した取組の充実

・キャリア教育の情報収集や意見交換を異なる校種間等で行うとともに、身近な職業や事業所の魅力とはたらき、自分との関連について、職場・職業体験、見学などを通して探求し、児童生徒のキャリアプランニング能力の育成が図られるよう、連携を充実させる。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 小中高だて学 担当者連携会議に参加 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

● 発達段階に応じた学習の充実

・各校における教育課程、キャリア教育全体計画に基づき、特別活動を中核としながら、学校の教育活動全体をとおして、体系的に児童生徒のキャリア発達を促す。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 全体計画に基づいた、発達段階に応じた自己の進路や生き方を選択する能力の育成 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎「将来の夢や目標を持っている」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学校６年生、中学校３年生の割合 | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教育学校の前期課程 | 89.2% | 83.4% | 81.6% | | | | 92.0% | d | 全国学力・学習状況調査 |
| 中学校及び義務教育学校の後期課程 | 65.0% | 62.8% | 61.2% | | | | 75.0% | c | 全国学力・学習状況調査 |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| C | 小・中学校及び義務教育学校ともに前年度（R5　小学校　81.6%、中学校　61.2%）を下回り、かつ、目標設定年度も下回っていることから、この評価とした。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 引き続き各校において定めるキャリア教育全体計画に基づき、発達段階に応じて児童生徒個々のキャリア発達を促す取り組みの改善を図っていく。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第1節 | 社会を生き抜く力を育む教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策6 | 環境教育の充実 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

● 学校の特色を生かし、環境教育を視野に入れた教育課程の編成・実施

・各教科・領域等を通し、子どもたち一人ひとりが、地域の将来などを自らの課題として捉え、そうした課題の解決に向けて自分たちができることを考え、多様な人々と協働し実践できるよう、指導の充実を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 環境教育全体計画に基づいた、学校の教育活動全体での環境教育の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

● 生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度の育成

・自然体験や社会体験活動を通じて、環境に配慮した望ましい行動がとれる子どもを育てるよう環境教育の充実を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 泊を伴う学習や、自然体験学習、職業体験等における、環境教育の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **◎総合的な学習の時間における環境教育の実施校の割合** | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教前期課程 | 90.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 各校の経営計画 |
| 中学校及び義務教後期課程 | 0.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 各校の経営計画 |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | すべての学校において、環境教育全体計画に基づいて環境教育を実施していることから、この評価とした。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 各教科、特別活動、総合的な学習の時間、教育活動全体を通して環境教育に関する学習を継続して実施する。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第1節 | 社会を生き抜く力を育む教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策7 | 安全・防災教育の充実 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

● 関係機関や地域と連携し、自然災害を想定した実践的な防災訓練の実施

・有珠山の噴火や津波等を含めた自然災害等に備え、警察、消防署の協力を得て実践的な防災訓練を行うなど学校安全対策の充実を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 実践的な防災訓練や防災に関する教育活動の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎　すべての学校で防犯教室及び避難（防災）訓練を両方実施しているため、計画期間中においても、内容の充実を図りながら継続して実施する。 | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教前期課程 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 各校の経営計画 |
| 中学校及び義務教後期課程 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 各校の経営計画 |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | 防犯教室及び避難（防災）訓練については、中学校において一部隔年で実施しているものの、定期的に実施していることから、この評価とした。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 引き続き警察など地域の関係機関・団体等と連携し避難訓練・防犯教室等を継続して実施する。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第2節 | 豊かな心を育む教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策1 | 道徳教育の充実 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

● 道徳科の指導方法の工夫改善や、指導に生きる評価の在り方に係る研修の充実

・「考え、議論する道徳」の授業改善や評価にかかる研修の充実を図るとともに、自己を深く見つめ、人間としての在り方や生き方の自覚を深める中でよりよく生きるための道徳性が養われるよう、道徳教育全体の工夫・改善を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 「考え、議論する道徳」の実現に向けた校内研修の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **◎「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合** | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教育学校の前期課程 | 77.2% | 86.4% | 79.5% | | | | 85.0% | c | 全国学力・学習状況調査 |
| 中学校及び義務教育学校の後期課程 | 73.1% | 85.8% | 84.7% | | | | 80.0% | a | 全国学力・学習状況調査 |
| **◎「学校のきまり（規則）を守っている」と回答した小学校６年生、中学校３年生の割合** | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教育学校の前期課程 | 91.9% | 91.4% | 90.4% | | | | 95.0% | c | 学校への聞き取り調査 |
| 中学校及び義務教育学校の後期課程 | 93.8% | 98.5% | 98.1% | | | | 95.0% | a | 学校への聞き取り調査 |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| B | 「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合は目標設定年度を上回ったこと、「学校のきまり（規則）を守っている」と回答した小学校6年生の割合は目標設定年度をやや下回ったものの、中学校3年生の割合においては、目標設定年度を上回っていることから、この評価とした。 |

| 取組を進める上での課題と対応方針 |
|---|
| すべての学校において、思いやりの心を育み、自己を深く見つめ、よりよく生きるための道徳性が養われるよう道徳教育の校内研修を引き続き実施する。 |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第2節 | 豊かな心を育む教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策2 | 生徒指導・教育相談の充実 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

● 児童生徒や保護者への相談体制の充実

・生徒指導・教育相談の充実については、教員だけでは解決できないことも多くなってきており、こうした様々な児童生徒の相談に対して、教員のほか、引き続き道費によるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を継続するなど、児童生徒の置かれている状況や抱えている問題・悩みに応じて対応する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | スクールソーシャルワーカーの学校訪問、伊達市こどもライン相談の活用 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎　伊達市内の不登校率が全国平均を下回る | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教前期課程 | 0.3% | 0.9% | 0.7% | | | | 前年度の全国平均を下回る | a | R5 2.1% |
| 中学校及び義務教後期課程 | 2.2% | 6.5% | 5.4% | | | | 前年度の全国平均を下回る | a | R5 6.7% |
| ◎「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した小学校6年生、中学校3年生の割合 | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教前期課程 | 98.5% | 97.0% | 97.9% | | | | 100.0% | b | 全国学力・学習状況調査 |
| 中学校及び義務教後期課程 | 91.6% | 95.4% | 96.0% | | | | 100.0% | b | 全国学力・学習状況調査 |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| B | 不登校率は、全国（R5　小学校2.1％、中学校6.7％）と比較し小学校で1.4ポイント、中学校で1.3ポイント下回った。また、いじめに対する回答において、どんな理由があってもいじめはいけないと回答した割合が昨年度（R5　小学校　97.0％、中学校　95.4％）より上回っていることから、この評価とした。 |

| 取組を進める上での課題と対応方針 |
|---|
| いじめ防止対策推進法に基づき、教育相談や生徒指導等の校内体制の充実や不登校及びいじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた校内研修等を、引き続きすべての学校で継続する。 |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 2 | 2 | 2 | 指導室指導員（不登校担当）給与（職員給与費） | 5,215 | | |
| | 9 | 1 | 2 | 不登校等対策事業経費 | 836 | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第3節 | 健やかな体を育む教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策1 | 体力・運動能力の向上 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●「体力向上プラン」に基づいた取組の工夫・改善

・小学校1年生から中学校3年生を対象とした「伊達市体力テスト」を実施し、各学校において、児童生徒の体力・運動能力の検証を図ることにより、個々の体力・運動能力の向上を目的とした「体力向上プラン」を作成し、学習指導の工夫・改善を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 伊達市体力テストの結果等に基づいた「体力向上プラン」の作成と、学習指導の工夫・改善 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **◎「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点において、全国平均を上回る** | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教育学校の前期課程(男子) | 全国平均比：+0.4% | 1.1% | −0.6% | | | | 全国平均を上回る | b | |
| 小学校及び義務教育学校の前期課程(女子) | 全国平均比：+1.1% | 2.4% | 0.5% | | | | 全国平均を上回る | a | |
| **◎「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点において、全国平均を上回る** | | | | | | | | | |
| 中学校及び義務教育学校の前期課程(男子) | 全国平均比：+1.3% | −1.3% | −1.4% | | | | 全国平均を上回る | c | |
| 中学校及び義務教育学校の前期課程(女子) | 全国平均比：−3.1% | −3.1% | −4.4% | | | | 全国平均を上回る | d | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　ー：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| C | 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、小学校の女子以外は下回っていることから、この評価とした。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| すべての学校において児童生徒の実態に応じた「体力向上プラン」を作成し、体育科の指導の改善を図るほか、引き続き持久力を含めた体力・運動能力向上に向け取り組む。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
ー・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第3節 | 健やかな体を育む教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策2 | 食育・健康教育の推進 | | 担当課係 | 食育センター庶務係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●だて歴史の杜食育センターの活用

・より安心安全な給食の提供に努め、給食の充実を図るため献立の見直しに取り組む。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 全国の郷土料理を取り入れた献立の考案 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●地場産物を活用した学校給食の充実

・地場産物を活用した学校給食の提供を務めるとともに、日本文化や季節の行事など食育の観点を意識した献立づくりに取り組む。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 地場産食材を利用した新たなメニューの考案、イベント・行事を意識した献立の工夫 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●栄養教諭派遣事業の継続的な実施

・栄養教諭派遣指導で食べることの大切さを伝えるため、今年度各小学校全学年1回以上実施することとし、計30回派遣する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 栄養教諭派遣事業の継続 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●児童生徒や家庭に対する、食育の大切さに関する啓発活動

・毎月学校に配布しているランチメール、献立メモの充実を図り、家庭への食育の大切さに関する啓発活動を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 食育に関する情報についての月目標を立て献立表を活用して発信 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **◎学校給食における地元産食材利用率が前年度を上回る** | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教育学校の前期課程 | ― | 32.7% | 35.7% | | | | 40.0% | c | |
| 中学校及び義務教育学校の後期課程 | ― | 32.7% | 35.7% | | | | 40.0% | c | |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　―：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| B | 地元産食材利用率は前年度を上回ることができたが、当初設定した中間年度（R5）37.5%には未達の状況であるため、更なる取組みが必要である。そのような中ではあるが、「地産地消の日」などのイベント食や栄養教諭による食育推進のための学校派遣事業により、子どもたちの「地元の食べものに対する興味・関心」は高まっている状況である。 |

| 取組を進める上での課題と対応方針 |
|---|
| 物価高騰の影響が続いている状況においても、学校給食の質を低下させないよう献立の工夫等を引き続き実施する。そのような中でも可能な限り地元産食材の利用に努め、利用率の上昇を図る。 |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
―・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 5 | 3 | だて歴史の杜食育センター運営管理費 | 354,524 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第3節 | 健やかな体を育む教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策2 | 食育・健康教育の推進 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●がん教育や薬物乱用防止教室・性に関する指導の実施

・各学校における教育計画に基づき、保健体育・学級活動の学習や、外部講師を招き講座を実施するなど、取組を充実させる。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | がん教室など各種研修講座の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **◎がん教育の実施率が、前年度の実施率を上回る** | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教育学校の前期課程 | 50.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 学校への聞き取り調査 |
| 中学校及び義務教育学校の後期課程 | 75.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 学校への聞き取り調査 |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | がん教育を全校で実施していることから、この評価とした。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 引き続き全ての学校において、がん教育を実施する。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第4節 | 地域とともにある学校づくりの推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策1 | 地域総がかりの教育の推進 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

● コミュニティ・スクールを基盤とした学校運営へ地域が参画する取組の推進

・地域の住民や関係者が各校の運営協議会に参加し、学校運営に参画していただくことにより、地域とともにある学校づくりを進める。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 学校運営協議会を軸とした学校経営の充実と、住民や保護者が主体的に学校運営に参画する取組 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

● 各校のコミュニティ・スクールの活動内容を参考に研修を深める取組の充実

・教職員や地域の住民、関係者がその制度や内容などについて理解を深めるとともに、他校の学校運営協議会の活動について研修する機会を設けるなど、各校における学校運営協議会の取り組みを充実させる。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 伊達市学校運営協議会委員研修会の開催 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれる」と回答した割合 | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教育学校の前期課程 | 77.7% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 学校への聞き取り調査 |
| 中学校及び義務教育学校の後期課程 | 66.6% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 学校への聞き取り調査 |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | 前年度に引き続き、全ての学校において、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加していただいていることから、この評価とした。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 今後も継続して、全ての学校において、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動を実施する。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 1 | 3 | コミュニティ・スクール運営経費 | 187 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第4節 | 地域とともにある学校づくりの推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策2 | ふるさと創生教育の推進 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

● 発達段階に応じた「だて学」学習プログラムの構築

・ふるさと創生教育「だて学」推進事業により発達段階に応じて学習内容を体系化した学習プログラムを構築し、地球規模の視野で考え、地域の視点で行動できる子供を育成するため、小学校から中学校、高等学校まで系統立てた学習を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | ふるさと創生教育「だて学」の実施、および、学習内容の工夫・改善 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

● 地域の教育資源を生かした体験的な学習活動の充実

・学校において、地域の専門的な知識・技能を有する人材や地域の施設、副読本等を活用することにより、伊達市の歴史的風土、伝統、文化等について学ぶ取組を充実させる。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 地域の芸術や伝統芸能、歴史文化に触れる取組、および、地域人材・施設等の活用 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎「地域や社会で起こっている問題に関心があるか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した小学校6年生、中学校3年生の割合 | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教育学校の前期課程 | 60.6% | 80.7% | 65.7% | | | | 70.0% | c | 学校への聞き取り調査 |
| 中学校及び義務教育学校の後期課程 | 53.5% | 71.0% | 62.2% | | | | 70.0% | c | 学校への聞き取り調査 |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| C | 「地域や社会で起こっている問題に関心があるか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した小学校6年生、中学校3年生の割合は小学校、中学校ともに目標を下回っていることから、この評価とした。 |

| 取組を進める上での課題と対応方針 |
|---|
| 全ての学校において、ふるさと創生教育「だて学」の学習プログラムを継続して実施するとともに、学習方法・学習内容の工夫改善を図る。 |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 1 | 3 | ふるさと創生教育「だて学」推進事業 | 403 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第4節 | 地域とともにある学校づくりの推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策3 | 異校種間連携・接続の推進 | | 担当課係 | 教育部指導室 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●幼稚園、認定こども園、保育所と小学校との連携

・小学校体験入学や幼稚園・保育所交流など、就学前の幼児を中心とした未就学児と、児童との交流活動を推進し教育活動の円滑な接続を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 幼保・小間での交流活動、体験入学等、計画的な連携・接続の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●小学校と中学校との連携

・中学校区を基本とした児童・生徒交流、異校種間の教育課程の接続や児童・生徒に関する引継ぎ、指導方法に関わる研修会の推進により、小・中学校の教育活動の円滑な接続を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 各中学校区を基本とした、児童生徒交流、生徒指導、教育課程、特別支援教育等に係る連携・接続の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●小・中学校と高等学校、高等教育機関（専門学校・大学等）との連携

・市内高等学校と小・中学校での教育活動上の連携、教職員の指導方法に関わる、交流、情報交換を推進することにより、小・中学校と高等学校等の円滑な接続を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 市内道立学校との異校種間連携の実施、および、異校種間連携等における情報交流 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **◎教育活動等に関する調査において、「近隣等の学校と教員同士の交流を行っている」と回答した学校の割合** | | | | | | | | | |
| 小学校及び義務教育学校の前期課程 | 60.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 学校への聞き取り調査 |
| 中学校及び義務教育学校の後期課程 | 40.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | 学校への聞き取り調査 |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | 全ての学校において、指導方法に関わる情報交換や教育活動上での連携など、近隣等の学校と教員同士の交流を行っていることから、この評価とした。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 今後も継続して、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に活かすことができるよう情報交換や教育活動上での連携など、近隣等の学校と教員同士の交流を実施する。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第4節 | 地域とともにある学校づくりの推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策4 | 幼児教育の充実 | | 担当課係 | 学校教育課学校教育係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●「アプローチカリキュラム」の実施（年長児）

・就学前の幼児が円滑に小学校や前期課程の生活が送れるように、市内の幼稚園、認定子ども園、保育所の年長児と交流学習を実施する

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 交流学習の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●「スタートカリキュラム」の実施（小学校入学時）

・小学校や前期課程での生活がスムーズに適応していけるように、生活科を中心に学科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を実施する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 指導計画の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●幼・保・小・中連携体制の構築

・子どもや保護者の不安解消や、負担軽減が出来るよう、幼・保・小・中連携体制の構築体制を構築するため、接続時の課題を把握する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 異校種間の連携の推進 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎　各小学校と義務教育学校が市内の幼稚園、認定こども園、保育所の年長児と交流学習を3回以上した割合 | | | | | | | | | |
| 交流した割合 | 22.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | |
| | | | | | | | | | |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | 小学校や義務教育学校前期課程への接続を意識し、交流事業の実施を計画どおり実施している。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 引き続き、実施機会の確保及び内容の充実を図り、交流学習の実施に努める。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第4節 | 地域とともにある学校づくりの推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策5 | 教職員の資質・能力の向上 | | 担当課係 | 学校教育課学校教育係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●伊達市教育実践交流・研修会の実施

・市内の教職員が一堂に会してお互いの実践を交流・協議することを通じて、教職員間のコミュニケーションの促進と教育課題の共有化や資質向上のために研修を実施する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 教育実践交流・研修会の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●資質能力向上のための研修会の実施

・専門性を生かした役割を向上させるため、学校と学校、あるいは学校と教育委員会・関係諸機関との間で教育行政の立場で連携を図る研修を実施する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 伊達市教育研究会事務部会交流意見交換会、伊達市教育研究会学校保健会との協議会 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎　市内教職員の伊達市教育実践交流・研修会への参加率 | | | | | | | | | |
| 参加率 | 64.0% | 88.9% | 90.0% | | | | 80.0% | a | |
| | | | | | | | | | |
| ◎　市内教職員（養護教諭、栄養教諭、事務職員）の研修会への参加率 | | | | | | | | | |
| 参加率 | 65.4% | 81.8% | 100.0% | | | | 90.0% | a | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | 伊達市教育実践交流・研修会等において、実践的な内容の研修会を開催し、市内の学校での取組みを共有できる場として定着しており、高い参加率を維持している。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 引き続き、教職員の資質・能力の向上を図ることを目的とし、教育課題の共有及び研修ニーズの把握により、実りある研修の実施に努める。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 1 | 2 | 伊達市教育研究会補助金 | 739 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第5節 | 信頼される教育環境の整備 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策1 | 学校施設・設備の充実 | | 担当課係 | 学校教育課企画総務係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●伊達市学校施設長寿命化計画の策定

・計画的な改修と改修コストの縮減および平準化を図ることを目的として、伊達市学校施設長寿命化計画を策定した。学校の統廃合が一段落したことから、施設の改修計画について、将来的な動向も見据え、検討を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 蛍光灯製造中止に対応するため、LED化事業の追加等、実施計画の見直しを行った |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●伊達市学校施設長寿命化計画に基づく計画的な学校施設の修繕

・伊達市学校施設長寿命化計画に基づき、改築工事及び施設改修を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 伊達小校舎改築事業、市立学校校舎冷房設備設置事業、伊達中学校校舎等トイレ改修事業 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **◎伊達市学校施設長寿命化計画に登載した事業の実施** | | | | | | | | | |
| 事業実施率 | ― | 77.7% | 76.3% | | | | 100.0% | b | |
| | | | | | | | | | |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　―：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| B | 当初計画には無かった市立学校校舎冷房設備設置事業を加えた4件の事業実施ができた。また、令和9年中の蛍光灯製造中止に対応するために、LED化事業を新たに事業計画に加えたことにより、一時的に事業実施率が下がったものの、LED化事業の一部については、既に国庫交付金の交付決定済、市予算計上済となっている。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 学校施設の改修については、計画的に実施できているものの、長期的に改修計画を立てる必要がある施設もあることから、施設状況等も鑑み、事業を進めていく。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
―・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 2 | 1 | 伊達小学校校舎改築事業（現年＋繰越） | 365,946 | | |
| | 9 | 2,3 | 1 | 小・中学校校舎冷房設備設置事業（繰越） | 227,007 | | |
| | 9 | 3 | 1 | 伊達中学校校舎等トイレ改修事業（繰越） | 74,690 | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第5節 | 信頼される教育環境の整備 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策2 | 校外安全対策の充実 | | 担当課係 | 学校教育課学校教育係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●交通安全教室、防犯教室の実施

・警察など関係機関と連携した訓練や指導を行い、児童生徒の交通安全意識や防犯意識の向上を図るため実施する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 交通安全教室、防犯教室の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●通学路安全対策の充実

・登下校交通安全・防犯プログラムに基づき、関係機関と連携し合同点検を実施

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 登下校安全対策推進会議の実施、対策案の検討及び協議 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎　必要に応じ警察など地域の関係機関・団体等と連携し、児童生徒が交通安全教室もしくは防犯教室を実施している学校の割合 | | | | | | | | | |
| 小学校及び前期課程 | 60.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | |
| 中学校及び後期課程 | 25.0% | 100.0% | 100.0% | | | | 100.0% | a | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | 交通安全教室及び防犯教室については、必要に応じ警察署等と連携しながら全校で実施している。<br>通学路の安全対策について、合同点検及び登下校安全対策推進会議を開催し、校区の危険箇所に係る協議等を継続している。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 登下校時における児童生徒等の安全確保と総合的な交通安全・防犯対策について、効果的な取組となるよう実施方法等の工夫や内容の精査を行う必要がある。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第5節 | 信頼される教育環境の整備 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策3 | 学校再編等の推進 | | 担当課係 | 学校教育課学校教育係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●伊達市立学校の適正規模の推進

・令和5年度で学校再編は終了したが、引き続き、児童生徒が、望ましい学校規模の中で学び、資質や能力をさらに伸ばしていけるよう、子どもたちの教育環境をより良いものにするために、地域や学校の実情等を考慮しながら、必要に応じて検討する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 伊達市立学校の適正規模の推進（地域や学校事情を把握） |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎　計画最終年度における適正規模を下回る学校数（関内小学校、星の丘小・中学校、大滝徳舜警学校を除く） | | | | | | | | | |
| 適正規模を下回る学校数 | ― | 0校 | 0校 | | | | 0校 | a | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　―：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | 令和5年度で学校再編は終了したが、文部科学省が示す「原則として、1学年2学級以上の学校を適正規模」を基本的な考え方としながら、学校の統廃合については、地域や学校の実情等を考慮しながら必要に応じて検討する。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 引き続き、子どもたちの教育環境をより良いものにするために、学校の統廃合については、地域や学校の実情等を考慮しながら検討する必要がある。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
―・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第1章 | 学校教育 | 第5節 | 信頼される教育環境の整備 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策4 | 高等学校教育等との連携・支援 | | 担当課係 | 学校教育課企画総務係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●市内高等学校・高等養護学校との連携・支援

・子どもたちや地域にとって魅力ある高等学校を構築するため、連携・支援を行っていくとともに、ふるさと創生教育「だて学」を推進する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 北海道伊達開来高等学校支援補助金、高等学校における地域学習への支援 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| ー | 道立学校の取組に対して、市が評価することはそぐわないことから、評価不可とする。 |

| 取組を進める上での課題と対応方針 |
|---|
| 海外見学旅行や海外留学、予備校連携講習等の支援による学力・学校力向上に加え、開来高校生による市立学校との連携（出前教室）や地域貢献活動等、子どもたちや地域のための取組も進められていることから、事業の成果や課題を確認しながら、連携・支援を行っていくこととする。 |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
ー・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 1 | 2 | 北海道伊達開来高等学校支援補助金 | 19,158 | | |
| | 9 | 1 | 3 | ふるさと創生教育「だて学」推進事業 | 403 | | |
| | | | | | | | |

## （２）社会教育

| 第2章 | 社会教育 | 第1節 | ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策1 | こころとふるさと意識を育む体験活動の推進 | | 担当課係 | 生涯学習課青少年・スポーツ係 |

### １　推進方策および今年度の取組内容

●体験学習機会の充実

・だてっ子遊び学びの教室（全8回）、親子体験教室等の世代間交流事業を開催する。
　特にだてっ子遊び学びの教室については、軽スポーツを取り入れ、運動のきっかけづくりと新たな参加者の創出にもつなげる。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | だてっ子8回、親子体験教室1回実施。 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●市民団体等と連携した青少年事業の取組

・各種事業は、つどいサークル「ドロップ」、長生大学、伊達シニアクラブスポーツ少年団等の協力団体のもとに企画立案及び運営を行っている。事業を進めていくには必要不可欠な団体であるため、協力関係を維持継続し充実した青少年事業の開催を目指す。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | あそびまして・姉妹都市交流を各1回実施、また、胆振管内ふるさとリーダー研修会（WEB）3名参加 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●青少年健全育成に関するサポート体制の充実

・青少年の非行防止等のため、青少年指導センター指導員とともに下校時間帯に合わせた巡回街頭指導のほか、夏季海水浴場キャンプ場、祭典時特別巡回を実施する。また、伊達市教護会等関係機関との諸会議への出席や合同研修会の開催を開催、広域列車添乗補導を実施する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 街頭指導226回（海水浴8回、祭典巡回8回含む）、列車添乗4回、研修会1回実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎14歳以下人口に対する青少年を対象とした各種体験教室への参加者数の割合 | | | | | | | | | |
| 参加割合 | 7.82% | 8.7% | 12.1% | | | | 9.00% | a | |
| 参加人数 | 292人 | 296人 | 401人 | | | | 268人 | | |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | 青少年教育事業は、開催回数の増（6→8回）により、目標人数を上回る参加があった。 |

| 取組を進める上での課題と対応方針 |
|---|
| 体験学習機会の充実については、軽スポーツも取り入れる。（運動のきっかけづくり）<br>市民団体等との連携については、引き続き協力関係を継続し、充実した青少年事業の開催を目指す。<br>青少年健全育成に関するサポートについても関係機関と連携し、巡回等を実施する。 |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 4 | 5 | 青少年教育事業 | 333 | | |
| | 9 | 4 | 5 | 指導センター運営費 | 1,065 | | |
| | | | | | | | |

| 第2章 | 社会教育 | 第1節 | ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 施策2 | 交流活動を通じた地域づくりに参画する人材の育成 | | | 担当課係 | 生涯学習課青少年・スポーツ係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●リーダー養成研修・交流活動事業による人材の育成

・姉妹歴史友好都市シニアリーダー研修交流事業は姉妹都市である宮城県亘理町、歴史友好都市である宮城県山元町、柴田町、福島県新地町と継続実施する。交流を深めながら、レクや共同作業、集団行動を通じてコミュニケーションやリーダーシップの能力向上を図り、これからの地域づくりに必要な人材の育成を目指す。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 伊達開来校生5名参加（シニアクラブはスポーツ競技大会参加のため不参加） |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●青少年育成団体と連携した事業の取組

・二十歳を祝う会事業は、実行委員会を組織し、式典及び余興の企画立案・運営を行う。
　協力団体；伊達フェイバリットクラブ（青年団体）

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 二十歳を祝う会において、フェイバリットクラブの協力を得た。 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎14歳以下人口に対する市及び関係機関が実施するリーダー研修講習会、世代間交流事業への参加者数の割合 | | | | | | | | | |
| 参加割合 | 1.34% | 0.4% | 1.5% | | | | 2.00% | b | |
| 参加者数 | 50人 | 15人 | 50人 | | | | 60人 | | |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| B | リーダー養成研修においては、姉妹・歴史友好都市シニアリーダー研修・交流会（亘理町開催）に高校生5名を派遣、リーダーの礎を築くとともに活発な交流を図ることができた。<br>「あそびましておめでとう」は、企画内容を検討し「粘土あそび」を開催したところ参加者増となった。 |

| 取組を進める上での課題と対応方針 |
|---|
| リーダー養成研修においては、協力（参加）団体であるシニアクラブの団員数が減少しているため、伊達開来高校から募集している。<br>異世代間交流事業である「あそびましておめでとう」は、コロナ禍以降においても協力団体と協議し、開催時間の短縮と内容を変更し開催している。次年度においても協力団体と開催内容を検討する。 |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 4 | 5 | 青少年教育事業費 | 333 | | |
| | 9 | 4 | 5 | 姉妹・歴史友好都市シニアリーダー研修交流事業 | 525 | | |
| | 9 | 4 | 5 | 二十歳を祝う会事業 | 137 | | |

| 第2章 | 社会教育 | 第2節 | 共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策1 | 生涯にわたる充実した学習機会の提供 | | 担当課係 | 生涯学習課社会教育係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●市民ニーズを的確に把握し、より受講しやすい講座の開設

・アンケート等（毎講座後）を実施し、市民ニーズを反映した多種多様な講座を開設

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 文化・芸術鑑賞講座1講座、市民カレッジ5講座を開催 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●民間企業などのノウハウを活かした学習内容の充実

・カルチャーセンター指定管理者等と連携し、人気のある講座を連続して実施するなど、民間ならではの柔軟な事業を実施

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 指定管理者において、21事業52講座を開催 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●サークル団体の会員増や活性化のための広報活動の充実

・市民サークルまつりの参加希望団体募集を広報誌で実施。市民総合文化祭や市民サークルまつりなどの事業について、更なる市民周知を図るため、広報誌などの媒体を用いて事業の周知を実施

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 文化祭及びサークル祭りの両事業を実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●男女共同参画の推進

・胆振女性リーダー養成研修や男女共同参画教養講演会への参加を促進するため、魅力ある事業内容を検討するとともに、広報誌等による周知を実施。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 教養講演会を開催（17名）、胆振女性ﾘｰﾀﾞｰ養成研修（実地研修：埼玉県）に3名参加 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎推計人口に対する市が主催する市民講座・市民カレッジの受講者数の割合 | | | | | | | | | |
| 受講者数 | 249人 | 373人 | 736人 | | | | 306人 | a | R6実績より指定管理者主催事業を含む |
| 人口比受講者 | 0.72% | 1.18% | 2.38% | | | | 1.00% | | |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| A | 市主催講座は予定どおり実施し、指定管理者が行う市民講座は講座数、参加者ともに増加しているため。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| より多くの市民及び特に若い層の参加が増えるよう、周知方法を工夫し、また、アンケートによるニーズ把握から、企画内容への反映を検討する。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 4 | 2 | だて市民カレッジ開設事業 | 174 | | |
| | 9 | 4 | 2 | 男女共同参画社会づくり推進事業 | 28 | | |
| | 9 | 4 | 2 | 胆振女性リーダー養成研修事業 | 155 | | |

| 第2章 | 社会教育 | 第2節 | 共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策2 | 高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出 | | 担当課係 | 生涯学習課社会教育係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●長生大学の事業内容のニーズ把握による学習メニューの充実と積極的なPR強化

・事業内容のニーズ把握の手段として、在学生に対するアンケート等を実施し講義内容の充実を図る。長生大学事業について、広報誌等を活用し事業の周知を図る

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 伊達21回、有珠21回の学習日、7回の学習外活動を実施、広報紙等で学生募集を周知 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●高齢者の参画が期待される、コミュニティ・スクールなどの活動内容についての情報提供

・放課後子ども教室等が希望する事業と、長生大学として提供できることについて、事業推進にあたり互いに情報共有できるような仕組みを構築

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 放課後子ども教室事業は令和4年度をもって事業終了 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎65歳以上人口に対する長生大学学生数の割合 | | | | | | | | | |
| 学生数 | 235人 | 165人 | 157人 | | | | 282人 | c | |
| 学生数割合 | 1.88% | 1.35% | 1.29% | | | | 2.30% | | |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| C | 長生大学事業において、学習日は伊達及び有珠それぞれ21回を開催、学習外活動は7回の開催と概ね実施することができたが、減少傾向にある学生数が回復しないため。 |

| 取組を進める上での課題と対応方針 |
|---|
| ライフスタイルの多様化により、長生大学事業に対するニーズが様々であることを踏まえ、長生大学の事業内容について検討する。 |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 4 | 2 | 長生大学運営費 | 670 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第2章 | 社会教育 | 第2節 | 共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策3 | 家庭・地域の教育力の向上 | | 担当課係 | 生涯学習課社会教育係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●地域住民が、コミュニティ・スクール等と関わり合いながら子供を育てる地域基盤の強化

・放課後子ども教室事業などに地域住民が参加して貰えるよう、自治会やPTAなどの地域住民に対して事業内容などの周知活動を実施

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 放課後子ども教室事業は令和4年度をもって事業終了、放課後児童クラブ運営事業を市内5か所で実施。 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●関係機関と連携し、家庭教育に関する啓発活動の実施

・広報誌等による家庭教育の啓発活動を、関係機関と連携し実施

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 家庭教育の重要さについて、広報誌（7月号）及びHP等で啓発 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **◎家庭教育に係る講演会等の事業開催数** | | | | | | | | | |
| 事業開催数 | 1回 | 1回 | 0回 | | | | 3回 | c | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| C | 広報誌による啓発のみの実施となり、講座を開催することができなかったため。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 令和5年度の講座受講者が少なく、実施の可否について整理されなかったことから、今後の実施について方法や方向性を整理する必要がある。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 4 | 5 | 青少年教育事業 | 333 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| 第2章 | 社会教育 | 第2節 | 共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策4 | 図書館機能の充実 | | 担当課係 | 図書館業務係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●「伊達市立図書館運営基本方針」に基づく図書館の機能強化

市民の期待・要望・関心に応えるため、本の配架方法など館内整備に努め情報発信の充実を図る。POPコンテストを名称変更し秋の読書週間での審査を行う際に館内での飲食ニーズを探るなど新たな利用者層の開拓を狙う。
また、「伊達市立図書館整備基本構想」に基づき、新図書館建設にかかる基本設計・実施設計業務を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 情報発信の充実。POPコンテスト及び館内飲食ニーズ調査の実施。図書館整備事業。 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（R4） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎　図書館の1日平均利用者数 | | | | | | | | | |
| 図書館の1日平均利用者数 | 166人 | 127人 | 136人 | | | | 164人 | b | R4目標設定 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| B | 既定の情報発信媒体に加え、インスタグラムからも情報発信を行い、様々な新規事業を試行した。併せて飲食実証実験も行うことで、来館者がリラックスできる環境が生まれ、賑わいが創出された結果、来館者数の増加につながった。図書館整備については、図書館整備基本構想に基づき、基本・実施設計を実施し、年度末に建物工事に着工することができた。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| R8年度オープン予定の新図書館では、イベントスペースとグループ学習スペースを兼用する予定であるが、現在のイベントスペースに比べて面積が狭くなるため、イベントによっては規模を縮小するなど手法を検討する必要がある。<br>また、新館の開館時間を夜間まで延長する予定であり、R7年度に運営方法における協議が必要。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 4 | 7 | 読書普及促進事業 | 417 | | |
| | 9 | 4 | 7 | 図書館整備事業 | 310,935 | | |
| | 9 | 4 | 7 | 図書館整備事業（R5逓次繰越） | 11,000 | | |

## （３）歴史・文化芸術

| 第3章 | 歴史・文化芸術 | 第1節 | 特色ある地域文化の推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策1 | 文化芸術活動の振興 | | 担当課係 | 生涯学習課社会教育係 |

### １　推進方策および今年度の取組内容

●市民のニーズに応じた芸術鑑賞機会の充実

・市民に対して芸術性の高い舞台鑑賞機会を安価で提供することを目的とした西いぶり定住自立圏文化事業等、およびだて歴史文化ミュージアムを活用した美術展覧会を実施

| 主な取組内容 | | |
|---|---|---|
| | R6 | 西いぶり定住自立圏文化事業（登別市：落語、601名）を開催 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実

・市内すべての市立学校の児童生徒に対し、巡回小劇場事業を通して舞台鑑賞機会の提供を図る

| 主な取組内容 | | |
|---|---|---|
| | R6 | 市立学校の全児童生徒（引率含む1,942名）に対して、舞台鑑賞機会を提供 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●文化芸術活動発展のための人材育成事業の展開

・絵画部門において、青少年向けの「北海道ジュニア美術セミナー」から、本格的に画家を目指す「野田・永山塾」などの事業を実施。

| 主な取組内容 | | |
|---|---|---|
| | R6 | 絵画部門において、現代写実絵画研究所絵画教室を実施、他2事業も実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| 主な取組内容 | | |
|---|---|---|
| | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| 主な取組内容 | | |
|---|---|---|
| | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎　推計人口に対する市が主催・共催する文化芸術公演鑑賞者数の割合 | | | | | | | | | |
| 鑑賞人数 | 7,301人 | 7,321人 | 5,617人 | | | | 7,661人 | c | |
| 人口割合 | 21.11% | 23.23% | 18.19% | | | | 25.00% | | |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| C | 芸術文化振興事業を継続して実施し、芸術に触れる機会を提供することができたが、美術展覧会の未開催により鑑賞人数が減少したため。また、目標達成にはミュージアム等における展示事業での集客数も求められることから、展示内容を検討する必要がある。 |

取組を進める上での課題と対応方針

市が主催、共催する文化芸術公演事業については、関連団体と連携し、多世代にわたり文化芸術に触れる機会を提供できるよう検討する。また、市が保有する作品については、関連施設と連携し、鑑賞機会を提供できるよう検討する。

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 4 | 3 | 芸術文化振興事業 | 18,568 | | |
| | 9 | 4 | 3 | 芸術文化振興事業補助金 | 4,500 | | |
| | 9 | 4 | 6 | 特別展等開催事業（社会教育係分含む） | 3,195 | | |

| 第3章 | 歴史・文化芸術 | 第2節 | 歴史文化を活かしたまちづくりの推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策1 | 歴史文化資源の活用 | | 担当課係 | 生涯学習課文化財係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●だて歴史文化ミュージアムの活用

・だて歴史文化ミュージアムにおいて、歴史文化資源を活用した特別展等を開催することにより、市民や観光客がその価値を理解することで、さらなる文化資源の保護に繋げていきます。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 企画展及び各種イベント企画の実施 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●博学連携の取組

・市内小・中学校等と密接に連携を取りながら、博物館の特質を生かした学習の場に活用します。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 市内小・中学校等の学習の場としての受け入れ |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H30） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎だて歴史文化ミュージアム（本館）の1日平均観覧者数（有料及び減免）及び満足度 | | | | | | | | | |
| 1日平均観覧者数 | ― | 18.9人 | 23.3人 | | | | 43人 | b | 本館入館者数 |
| アンケート満足度 | ― | 65.9% | 88.5% | | | | 90.0% | b | アンケート回答集計結果 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　―：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| B | 2階観覧者数は前年比で1,284人増となり、特に無料イベント開催等による増加が顕著であった。この他、1階のラーニング・スタジオや藍染などの体験学習館にも多数の来館者があった。また、アンケート満足度についても目標値の9割に近い成果となった。 |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| 指定管理者と連携を図りながら、アンケート回収数増と、観覧者数・アンケート満足度向上に向けた2階展示室の定期的な展示替え及び展示資料の充足について検討する。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
―・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 4 | 6 | だて歴史文化ミュージアム運営管理費 | 56,738 | | |
| | 9 | 4 | 6 | だて歴史文化ミュージアム特別展等開催経費 | 3,195 | | |
| | | | | | | | |

| 第3章 | 歴史・文化芸術 | 第2節 | 歴史文化を活かしたまちづくりの推進 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策2 | 文化財の保護と適切な展示保管環境の維持 | | 担当課係 | 生涯学習課文化財係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●指定文化財の保護対策と指定化の推進

・世界文化遺産の史跡北黄金貝塚については、随時、経過観察しながら保全に努める。また、指定文化財については、市文化財保護条例に基づく適切な対応がとられるよう努めるとともに、特に文化的価値が高く、保護することが必要と認められる物件については、市文化財審議会に諮問し市の文化財に指定する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 指定記念物の剪定等による維持管理及び指定文化財の新規指定及び解除 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●展示保管施設のモニタリングによる管理

・埋蔵文化財を保管する噴火湾文化研究所収蔵庫では、担当職員が日常的に空調設備による温湿度設定のモニタリングを実施する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 文化財収蔵施設のモニタリングによる管理 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●子どもたちが文化財に触れる機会の充実

・市内の小中学校児童生徒に史跡北黄金貝塚やだて歴史文化ミュージアム、伊達市噴火湾文化研究所の文化財展示施設の解説や文化財に関する出前授業を行い文化財保護意識の啓発を行う。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 市内の小中学校の児童生徒に文化財展示施設の解説や文化財に関する出前授業等を実施する。 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H30） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **◎国・北海道・市による指定文化財の新規の指定件数** | | | | | | | | | |
| 指定件数 | ― | 0件 | 2件 | | | | 3件 | b | |
| | | | | | | | | | |
| **◎展示施設の見学や文化財に関する出前授業等を行った市内小中学校の児童生徒数の割合** | | | | | | | | | |
| 出前授業等を行った市内小中学生の割合 | ― | 32.6% | 36.3% | | | | 50.0% | c | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　―：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| B | R6年度は文化財審議会に諮り2件の市指定文化財の選定に到った。引き続き、追加指定に係る候補物件の選定を進める。<br>展示施設の見学や文化財に関する出前授業等を受けた市内小中学生の児童生徒の割合はR5年度から増減はほぼ無かった。 |

取組を進める上での課題と対応方針

出前授業等を行った市内小中学校の割合について、市内の全学校が何らかの施設見学及び出前授業を行うこととなったが、割合としては大きな変化はなかった。今後、学校のニーズ把握や授業計画とのマッチングなど、学校とのさらなる連携が必要であると考える。また、埋蔵文化財や民具等の収蔵物整理についても引き続き検討を進める。

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
―・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 4 | 4 | 指定文化財等保存管理・活用経費 | 5,795 | | |
| | 9 | 4 | 4 | 北黄金貝塚公開活用事業 | 4,684 | | |
| | 9 | 4 | 6 | だて歴史文化ミュージアム特別展等開催経費 | 3,195 | | |

## （４）スポーツ

| 第4章 | スポーツ | 第1節 | 豊かな心身を育むスポーツの振興 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策1 | スポーツ活動の促進 | | 担当課係 | 生涯学習課青少年・スポーツ係 |

### １　推進方策および今年度の取組内容

●スポーツに親しむための場の提供と情報発信

・年齢や経験に関わらず、健康と生きがいづくりのため誰もが気軽にスポーツに取り組むことができるよう、指定管理者と連携し、各種目の初心者教室等を開催する。また、モルック大会の開催などのニュースポーツの普及にも取り組んでいく。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 健康づくり教室（卓）90回1,728人、高齢者運動教室（ふまねっと等）30回403人など |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●スポーツ団体の育成と活動支援

・学校開放事業の実施や伊達市スポーツ協会を通じ各種競技団体の活動を支援し、競技の普及促進を図るほか、各種団体の全道・全国大会参加への経済的支援（補助金）を行う。また、スポーツクラブの活動を支援し、地域部活動を行う生徒の活動機会の確保や技術・体力の向上に取り組む。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | スポーツ少年団22団体と2大会への助成。学校開放8校52団体、延べ2,697回42,165人利用 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●各種スポーツ大会の開催支援

・指定管理者と連携して父ちゃん野球大会、レディースバレーボール大会などの大会を開催し、地域間、世代間交流を図りながらスポーツに取り組める場を提供する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 父ちゃん野球225人、ﾊﾟｰｸ3回122人、ﾄﾘﾑﾊﾞﾚｰ79人、モルック103人、ﾚﾃﾞｨｰｽﾊﾞﾚｰ112人 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●スポーツ指導者の養成と確保

・青少年期にスポーツに取り組むに当たっては、各々の心身の発達に合わせた取り組みと、技能向上のみならず集団生活などを通じた社会性を身に付けることが重要であり、そのためには適切な指導を行えるスポーツ指導者が必要となる。伊達市スポーツ少年団本部への支援を通じて指導者の養成と資質の向上に取り組む。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | リーダー養成は2事業14人、指導者育成（研修会の開催）3回57人 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎推計人口に対する総合体育館における各種スポーツ教室への参加者数の割合 | | | | | | | | | |
| 参加割合 | 136.10% | 109.9% | 125.2% | | | | 140.00% | b | |
| 参加者数 | 47,063人 | 35,693人 | 40,167人 | | | | 42,899人 | | |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| B | 各種大会や教室等の参加者数は、指定管理者の自主事業回数の増により着実に増加している。<br>利用者ニーズに応じた各種スポーツ機会の提供は、スポーツ少年団本部及び地域体育振興会の協力により、青少年や地域スポーツ活動の普及促進は図ることができた。 |

取組を進める上での課題と対応方針

スポーツ施設の有効活用のため、指定管理者と定期的に協議を行い、幅広い年齢層を対象とした各種事業を提案するとともに、ニュースポーツの普及や各種スポーツ・レクリエーションを楽しめる機会と活動環境の整備・充実を図る。各種目に対応した指導力の向上と指導者の育成は、スポーツ少年団本部の協力を得ながら、それをサポートする。

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 4 | 2 | 部活動地域移行補助金 | 20,146 | | |
| | 9 | 5 | 1 | スポーツ少年団活動補助金 | 835 | | |
| | 9 | 5 | 1 | 学校施設開放事業経費 | 2,644 | | |

| 第4章 | スポーツ | 第1節 | 豊かな心身を育むスポーツの振興 | |
|---|---|---|---|---|
| 施策2 | スポーツ施設の整備・充実 | | 担当課係 | 生涯学習課青少年・スポーツ係 |

## 1　推進方策および今年度の取組内容

●各施設の状況に応じた管理及び運営内容の充実

・各施設の主な設置目的に沿った供用はもちろんのこと、空き時間帯にスポーツ以外の団体や用途に供するなど、各施設の内容を考慮しながら有効活用を推進する。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 武道館でのダンス他、関内PGの冬季営業試行、アルトリPGではモルック大会が開催された。 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●施設及び備品の修繕・更新計画の策定

・老朽化が進む施設はもちろんのこと、供用開始から日が浅い施設についても、近い将来に相当の修繕や更新を行わなければならない施設の箇所、備品等の修繕・更新計画の作成に向けた準備を指定管理者と連携して行う。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 総合体育館屋根補修（275千円）、総合体育館非常放送設備（1,738千円）、サッカーゴール（460千円） |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

●指定管理者制度の推進とサービスの向上

・直営で管理している、まなびの里サッカー場の指定管理者制度への移行に向けて検討を行う。
　また、指定管理者が運営管理する施設においては、スポーツ用品や飲食物の販売などで利用者へのサービス向上を図る。

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | 総合体育館では、バドミントンラケットのガッド交換、ソフトクリームの販売が行われた。 |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

| | | |
|---|---|---|
| 主な取組内容 | R6 | |
| | R7 | |
| | R8 | |
| | R9 | |
| | R10 | |

## 2　施策の目標設定における取組状況・評価

| | 目標設定（H29） | 中間年度（R5） | R6 | R7 | R8 | R9 | 目標年度（R10） | 取組評価 | 出典等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ◎推計人口に対するスポーツ施設等の延べ利用者数の割合 | | | | | | | | | |
| 利用者割合 | 1105.44% | 855.0% | 898.4% | | | | 1110.00% | b | |
| 利用者数 | 382,250人 | 277,690人 | 288,106人 | | | | 340,126人 | | |
| ◎ | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

■取組評価指標　a：順調　b：概ね順調　c：やや遅れている　d：遅れている　－：評価不可

## 3　施策に対する達成度評価

| 達成度評価 | 評価の理由 |
|---|---|
| B | 指定管理者による自主事業実施回数の増により、施設の利用促進が図られ、市民の健康・体力づくりに資することができた。（R5比；プラス10,416人） |
| 取組を進める上での課題と対応方針 | |
| より多くの市民にスポーツ施設を利用していただけるよう、指定管理者と定期的な協議を行い、健康・体力づくりに関する情報発信及び健康意識の啓発とニーズに沿った多種多彩な教室の展開と施設の計画的な改修等を実施することで、各施設をより多くの市民に有効活用していただけるよう努める。 | |

■達成度評価指標　A・・達成、完了　B・・達成に向け進捗あり　C・・着手したが遅延している　D・・未着手
－・・評価不可

| 予算書上の細目名等 | 款 | 項 | 目 | 事業（細目）名 | 決算額（千円） | 摘要 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | 5 | 2 | まなびの里パークゴルフ場運営管理委託費 | 9,987 | | |
| | 9 | 5 | 2 | まなびの里サッカー場維持管理費 | 6,607 | | |
| | 9 | 5 | 2 | スポーツ施設運営管理費 | 133,127 | | |

## （５）達成度評価一覧

| 章 | 節 | 主な施策 | 達成度評価（R5） | 達成度評価（R6） | 目標設定 | 取組評価 | 担当 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 「第2次伊達市教育教育振興基本計画」 に基づく管理及び執行状況の評価 | | | | | | | |
| 1.学校教育 | | | | | | | |
| | 第1節　社会を生き抜く力を育む教育の推進 | | | | | | |
| | | 1.確かな学力の育成 | B | B | 国語の授業がよく分かると答えた児童の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | a | 指導室 |
| | | | | | 国語の授業がよく分かると答えた生徒の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | a | |
| | | | | | 算数の授業がよく分かると答えた児童の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | c | |
| | | | | | 算数の授業がよく分かると答えた生徒の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | b | |
| | | 2.特別支援教育の充実 | A | A | 個別の教育支援計画を作成し、就学先や進学先等への引継ぎに活用している学校の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | a | 指導室 |
| | | | | | 個別の教育支援計画を作成し、就学先や進学先等への引継ぎに活用している学校の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | a | |
| | | 3.国際理解教育の推進 | C | C | 伊達市学力テストにおける外国語の伊達市全体の平均点が全国平均を上回る | d | 指導室 |
| | | 4.情報教育の充実 | A | A | 情報通信技術を活用した学習指導を実施した学校の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | a | 指導室 |
| | | | | | 情報通信技術を活用した学習指導を実施した学校の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | a | |
| | | 5.キャリア教育の充実 | C | C | 「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | d | 指導室 |
| | | | | | 「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | c | |
| | | 6.環境教育の充実 | A | A | 総合的な学習の時間における環境教育実施校の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | a | 指導室 |
| | | | | | 総合的な学習の時間における環境教育実施校の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | a | |
| | | 7.安全・防災教育の充実 | A | A | 防犯教室及び避難（防災）訓練実施校の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | a | 指導室 |
| | | | | | 防犯教室及び避難（防災）訓練実施校の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | a | |
| | 第2節　豊かな心を育む教育の推進 | | | | | | |
| | | 1.道徳教育の充実 | A | B | 「自分にはよいところがある」と答えた児童生徒の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | c | 指導室 |
| | | | | | 「自分にはよいところがある」と答えた児童生徒の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | a | |
| | | | | | 「学校のきまりを守っている」と答えた児童生徒の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | c | |
| | | | | | 「学校のきまりを守っている」と答えた児童生徒の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | a | |
| | | 2.生徒指導・教育相談の充実 | C | B | 伊達市内の不登校率が全国平均を下回る（小学校及び義務教育学校の前期課程） | a | 指導室 |
| | | | | | 伊達市内の不登校率が全国平均を下回る（中学校及び義務教育学校の後期課程） | a | |
| | | | | | 「いじめはいけないことだと思いますか」の問いに、「あてはまる」と回答した児童生徒の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | b | |
| | | | | | 「いじめはいけないことだと思いますか」の問いに、「あてはまる」と回答した児童生徒の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | b | |

| 章 | 節 | 主な施策 | 達成度評価（R5） | 達成度評価（R6） | 目標設定 | 取組評価 | 担当 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | **第3節　健やかな体を育む教育の推進** | | | | | | |
| | | 1.体力・運動能力の向上 | C | C | 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点において、全国平均を上回る（小学校及び義務教育学校の前期課程（男子）） | b | 指導室 |
| | | | | | 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点において、全国平均を上回る（小学校及び義務教育学校の前期課程（女子）） | a | |
| | | | | | 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点において、全国平均を上回る（中学校及び義務教育学校の後期課程（男子）） | c | |
| | | | | | 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点において、全国平均を上回る（中学校及び義務教育学校の後期課程（女子）） | d | |
| | | 2.食育・健康教育の推進 | C | B | 学校給食における地元産食材利用率が前年度を上回る（小学校及び義務教育学校の前期課程） | c | 食育センター庶務係 |
| | | | | | 学校給食における地元産食材利用率が前年度を上回る（中学校及び義務教育学校の後期課程） | c | |
| | | | A | A | がん教育の実施率が、前年度の実施率を上回る（小学校及び義務教育学校の前期課程） | a | 指導室 |
| | | | | | がん教育の実施率が、前年度の実施率を上回る（中学校及び義務教育学校の後期課程） | a | |
| | **第4節　地域とともにある学校づくりの推進** | | | | | | |
| | | 1.地域総がかりの教育の推進 | A | A | 「保護者や地域の人が教育活動等に参加してくれる」と回答した学校の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | a | 指導室 |
| | | | | | 「保護者や地域の人が教育活動等に参加してくれる」と回答した学校の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | a | |
| | | 2.ふるさと創生教育の推進 | A | C | 「地域や社会で起こっている問題に関心がある」と回答した児童生徒の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | c | 指導室 |
| | | | | | 「地域や社会で起こっている問題に関心がある」と回答した児童生徒の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | c | |
| | | 3.異校種間連携・接続の推進 | A | A | 近隣の学校と教員同士の交流を行っている学校の割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | a | 指導室 |
| | | | | | 近隣の学校と教員同士の交流を行っている学校の割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | a | |
| | | 4.幼児教育の充実 | A | A | 小学校と義務教育学校が市内の幼稚園等の年長児と交流学習を3回以上行った割合 | a | 学校教育係 |
| | | 5.教職員の資質・能力の向上 | B | A | 市内教職員の伊達市教育実践交流・研修会への参加率 | a | 学校教育係 |
| | | | | | 市内教職員（養護教諭、栄養教諭、事務職員）の研修会への参加率 | a | |
| | **第5節　信頼される教育環境の整備** | | | | | | |
| | | 1.学校施設・設備の充実 | B | B | 伊達市学校施設長寿命化計画に登載した事業の実施 | b | 企画総務係 |
| | | 2.校外安全対策の充実 | A | A | 警察など地域の関係機関等と連携し、交通安全教室と防犯教室を実施している割合（小学校及び義務教育学校の前期課程） | a | 学校教育係 |
| | | | | | 警察など地域の関係機関等と連携し、交通安全教室と防犯教室を実施している割合（中学校及び義務教育学校の後期課程） | a | 学校教育係 |
| | | 3.学校再編等の推進 | A | A | 計画最終年度における適正規模を下回る学校数（関内小学校、星の丘小・中学校、大滝徳舜瞥学校を除く） | a | 学校教育係 |
| | | 4.高等学校教育等との連携・支援 | － | － | | | 企画総務係 |

| 章 | 節 | 主な施策 | 達成度評価（R5） | 達成度評価（R6） | 目標設定 | 取組評価 | 担当 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2.社会教育 | | | | | | | |
| | 第1節　ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進 | | | | | | |
| | | 1.こころとふるさと意識を育む体験活動の推進 | B | A | 14歳以下人口に対する青少年を対象とした各種体験教室への参加者数・割合 | a | 青少年・スポーツ係 |
| | | 2.交流活動を通じた地域づくりに参画する人材の育成 | C | B | 14歳以下人口に対する市及び関係機関が実施するリーダー研修講習会、世代間交流事業への参加者数・割合 | b | 青少年・スポーツ係 |
| | 第2節　共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進 | | | | | | |
| | | 1.生涯にわたる充実した学習機会の提供 | A | A | 推計人口に対する市が主催する市民講座・市民カレッジの受講者数・割合 | a | 社会教育係 |
| | | 2.高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出 | C | C | 65歳以上人口に対する長生大学学生数の割合 | c | 社会教育係 |
| | | 3.家庭・地域の教育力の向上 | B | C | 放課後子ども教室実施小学校・義務教育学校数→家庭教育に係る講演会等の事業開催数（R5～） | c | 社会教育係 |
| | | 4.図書館機能の充実 | C | B | 人口に対する図書館の年間利用者数・割合の増加 | b | 図書館業務係 |
| 3.歴史・文化芸術 | | | | | | | |
| | 第1節　特色ある地域文化の推進 | | | | | | |
| | | 1.文化芸術活動の振興 | B | C | 推計人口に対する市が主催・共催する文化芸術公演鑑賞者数・割合 | c | 社会教育係 |
| | 第2節　歴史文化を活かしたまちづくりの推進 | | | | | | |
| | | 1.歴史文化資源の活用 | C | B | だて歴史文化ミュージアムの有料入館者数 | b | 文化財係 |
| | | | | | だて歴史文化ミュージアムの有料入館者アンケート調査の満足度 | b | |
| | | 2.文化財の保護と適切な展示保管環境の維持 | C | B | 国・北海道・市による指定文化財の新規の指定件数 | b | 文化財係 |
| | | | | | 展示施設の見学や文化財に関する出前授業等を行った市内小中学校の児童生徒数の割合（R5～） | c | |
| 4.スポーツ | | | | | | | |
| | 第1節　豊かな心身を育むスポーツの振興 | | | | | | |
| | | 1.スポーツ活動の促進 | C | B | 推計人口に対する総合体育館における各種スポーツ教室への参加者数・割合 | b | 青少年・スポーツ係 |
| | | 2.スポーツ施設の整備・充実 | C | B | 推計人口に対するスポーツ施設等の延べ利用者数・割合 | b | 青少年・スポーツ係 |

| | | |
|---|---|---|
| A評価 | 13 | 13 |
| B評価 | 6 | 11 |
| C評価 | 12 | 7 |
| D評価 | 0 | 0 |
| ー評価 | 1 | 1 |
| 計 | 32 | 32 |

## ４　外部評価

令和７年度（令和６年度対象）教育委員会事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価にあたって、客観性を確保するため、点検評価の方法や結果などについて学識経験を有する者の意見を聴きました。

### (1) 学識経験者

（敬称略）

| 氏　名 | 所　属　等 |
|---|---|
| 花　田　啓　光 | 伊達市校長会会長（伊達市立伊達中学校長） |
| 小　林　浩　路 | 伊達市社会教育委員会議議長 |
| 澤　野　幸　司 | 国立大学法人兵庫教育大学大学院教授 |

### (2) 主な意見

令和７年度（令和６年度対象）教育委員会点検・評価報告に関する意見

花　田　啓　光

**１　教育委員会の活動状況**

毎月１回の定例会と、必要に応じて開催する臨時会により、教育に関する様々な案件について検討し議決がなされている。

定例会については、開催予定や傍聴の案内、会議録等をホームページに掲載するとともに、定例会の開催に合わせて市内の教育施設の訪問がされている。

議案、協議事項の審議及び報告については厳正に行われ、委員からの情報提供や事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局の間で意見交換が活発に行われた。

さらに、必要に応じて事案の調査、研究、協議及び周知等を行うための委員協議会も開催されていた。

**２　「第２次伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価**

（１）学校教育

①社会を生き抜く力を育む教育の推進

施策１「確かな学力の育成」については、伊達市学力テストを実施することにより、本市の児童生徒の学力や学習状況を把握するとともに、「学力・学習改善プラン」を作成し、一人一人の基礎や基本の確実な定着を目指す取組を推進している。主な取組として、伊達市学力テストの調査結果等に基づいた学力・学習改善プランの作成とＡＩドリルの全児童生徒の活用、検定費用の補助に努めている。

また、ＩＣＴの活用や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革の

推進にいち早く取り組んできた成果と、タブレット端末の家庭への持ち帰りによる家庭学習の推進、ＡＩドリルの有効活用を含め、市全体として一層充実した取組となることを期待する。

施策２「特別支援教育の充実」については、伊達市特別支援教育推進協議会を実施し、学校や保育所、幼稚園等の関係機関が、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた適切な就学の場を提供するために、連携の充実が図られている。

また、伊達市特別支援教育推進協議会の各支援部会において新就学児および在校児童生徒一人ひとりに応じた就学の場を検討するとともに、特別支援教育支援員・介護員の配置により、児童生徒の学習支援や生活支援を行っている。

さらには、特別支援コーディネータ連絡会議における研修等により、校内特別支援コーディネータの知識等の向上を図り、教育相談の質の向上を図る取組については今後も継続を望む。

具体的な短期目標、長期目標を「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に設定することでそれらを日常的に活用し、障がいのある児童生徒の適正な就学措置や効果的な指導に活かしていくことは重要である。また、校種間連携により、個別の教育支援計画等の円滑かつ効果的な引継ぎを行うなど切れ目のない支援を大切にし、教育的ニーズに応じた教育支援を目指すことを今後も望む。

施策３「国際理解教育の推進」については、小学校中学年の外国語活動、高学年の外国語科の指導に向けて、小中学校の教職員が連携を深めるなど、指導力の向上に努めたことから、ＡＬＴとの連携及び効果的な活用による、指導方法の工夫・改善がなされている。

また、ＡＬＴ等ネイティブスピーカーとの交流活動や共同生活、英語を用いた体験活動を行う「だてっ子イングリッシュアドベンチャー」及び「イングリッシュデイ」の実施を通じて、子どもたちが語学教育だけでなく、外国の文化や習慣に触れられるなど国際理解教育の充実への取組がなされている。ただし、市の学力テストにおいて伊達市学力テスト結果において全国と比べ、中学生の外国語の平均点が、全国平均を下回っていることから、指導方法の工夫改善が必要である。

施策４「情報教育の充実」については、児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、情報手段を適切に活用できるようにするための学習活動に取り組むとともに、情報機器を利用する際の各教科等による情報モラルの育成に向けた学習活動の実施が図られている。

また、児童生徒一人ひとりに情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度が育まれるよう、ＧＩＧＡスクール構想に基づく整備を行うとともに、発達段階に応じたプログラミング教育の充実の推進に努めている。

施策５「キャリア教育の充実」については、学級や学校生活における様々な課題を解決するために、実現可能で具体的な目標を立てたり意思決定したりし、自己の良さを生かした主体的な活動を充実させ、現在や将来に希望や目標を持ち、日々の

生活に生かしていこうとする態度を養うために、キャリア教育全体計画に沿った、発達段階に応じて児童生徒個々のキャリア発達を促す取組がなされている。

また、生き方や希望する進路、職業の情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考え、主体的に選択・決定したり体験したりする活動を充実させ、自己実現に向けて目標を立てて計画的に取り組む態度や肯定的な自己理解を育むことから、特に、中学校段階のおいては職場見学や職業体験、職業座談会の実施等に取り組んでいる。

さらには、・児童生徒が自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら主体的に学習活動に取り組めるよう、自らの学びを見通したり、自己の変容や成長を振り返ったりする活動の充実を図るため、学習活動の節目や単元や学習の終末における、自己の変容を振り返る取組の重要性を共有し、推進している。

小中高にて、ふるさと創生教育「だて学」の情報共有や意見交換を異なる校種間等で行うとともに、身近な職業や事業所の魅力とはたらき、自分との関連について、職場・職業体験、見学などを通して探求し、児童生徒のキャリアプランニング能力の育成が図られるよう、連携を充実させる取組の継続を今後も望む。

加えて、各校における教育課程、キャリア教育全体計画に基づき、特別活動を中核としながら、学校の教育活動全体をとおして、体系的に児童生徒のキャリア発達を促す能力の育成は重要である。

施策６「環境教育の充実」については、各教科・領域等を通し、子どもたち一人ひとりが、地域の将来などを自らの課題として捉え、そうした課題の解決に向けて自分たちができることを考え、多様な人々と協働し実践できるよう、指導の充実を図るため、環境教育全体計画に基づいた、学校の教育活動全体での環境教育の実施を推進している。

また、自然体験や社会体験活動を通じて、環境に配慮した望ましい行動がとれる子どもを育てるよう環境教育の充実を図れるように、泊を伴う学習や、自然体験学習、職業体験等における環境教育の実施は今後も重要である。

施策７「安全・防災教育の充実」については、噴火や津波等を含めた自然災害等に備え、警察、消防署の協力を得て実践的な防災訓練を行うなど学校安全対策の充実を図るため、実践的な防災訓練や防災に関する教育活動の実施が計画的になされている。

②豊かな心を育む教育の推進

施策１「道徳教育の充実」については、授業改善や評価にかかる研修の充実を図るとともに、自己を深く見つめ、人間としての在り方や生き方の自覚を深める中でよりよく生きるための道徳性が養われるよう、道徳教育全体の工夫・改善を図ることから、「考え、議論する道徳」の実現に向けた校内研修の実施が推進されている。

施策２「生徒指導・教育相談の充実」については、スクールソーシャルワーカー

の学校訪問、伊達市こどもライン相談の活用が促され、教員だけでは解決できないいじめや不登校等も多くなってきている現状から相談に対して、教員のほか、引き続き道費によるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を継続することは、一層重要となっている。

③健やかな体を育む教育の推進

施策１「体力・運動能力の向上」については、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、小学校の女子以外は下回っていること等から、小学校１年生から中学校３年生を対象とした「伊達市体力テスト」を実施し、各学校において、児童生徒の体力・運動能力の検証を図ることにより、個々の体力・運動能力の向上を目的とした「体力向上プラン」を作成し、学習指導の工夫・改善を図ることは、今後も継続を望む。

施策２「食育・健康教育の推進」については、全国の郷土料理を取り入れた献立の考案など、より安心安全な給食の提供に努め、給食の充実を図るため献立の見直しに取り組んでいる。

また、地場産食材を利用した新たなメニューの考案、イベント・行事を意識した献立の工夫をし、地場産物を活用した学校給食の提供を務めるとともに、日本文化や季節の行事など食育の観点を意識した献立づくりは今後も望む。

さらには、栄養教諭派遣事業の継続により、栄養教諭派遣指導で食べることの大切さを伝えるため、今年度各小学校全学年１回以上実施することを今後も期待したい。

加えて、食育に関する情報についての月目標を立て献立表を活用して発信は、家庭への食育の大切さに関する大切な啓発活動であると考える。

がん教育や薬物乱用防止教室・性に関する指導の実施は、関係機関と連携した有意義な取組となっている。

④地域とともにある学校づくりの推進

施策１「地域総がかりの教育の推進」については、コミュニティ・スクールを基盤とした学校運営へ地域が参画する取組の推進により、今後も地域とともにある学校づくりが推進されることに期待する。

また、伊達市学校運営協議会委員研修会の開催は、教職員や地域の住民、関係者がその制度や内容などについて理解を深めるとともに、他校の学校運営協議会の活動について研修する機会となっており、各校における学校運営協議会の取り組みを充実させることにつながっている。

施策２「ふるさと創生教育の推進」については、ふるさと創生教育「だて学」の実施、および、学習内容の工夫・改善発達段階に応じた「だて学」学習プログラムの構築は、少子高齢化による人口減少を抱える本市において大切な取組だと考える。

また、地域の教育資源を生かした体験的な学習活動は、学校において、地域の専門的な知識・技能を有する人材や地域の施設、副読本等を活用することで効果が高い。伊達市の歴史的風土、伝統、文化等について学ぶ取組を充実させるため、地域の芸術や伝統芸能、歴史文化に触れる取組、および、地域人材・施設等の活用の継続を期待する。

施策３「異校種間連携・接続の推進」については、幼保・小間での交流活動、体験入学等、計画的な連携・接続の実施、各中学校区を基本とした、児童生徒交流、生徒指導、教育課程、特別支援教育等に係る連携・接続の実施、市内道立学校との異校種間連携の実施、および、異校種間連携等における情報交流は、今後も継続した取組を望む。

施策４「幼児教育の充実」については、アプローチ・カリキュラムにて就学前の幼児が円滑に小学校や前期課程の生活が送れるように、市内の幼稚園、認定子ども園、保育所の年長児と交流学習を実施することの継続を望む。

また、スタートカリキュラムの実施により、小学校や前期課程での生活がスムーズに適応していけるように、生活科を中心に学科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を実施することは重要であるため、継続を望む。

上記事項の円滑な取組は、子どもや保護者の不安解消や、負担軽減が出来るよう、幼・保・小・中連携体制の構築体制を構築するため、接続時の課題を把握することから重要である。

施策５「教職員の資質・能力の向上」については、市内の教職員が一堂に会してお互いの実践を交流・協議することを通じて、教職員間のコミュニケーションの促進と教育課題の共有化や資質向上のために教育実践交流・研修会の実施は、有意義な機会となっている。

また、伊達市教育研究会事務部会交流意見交換会、伊達市教育研究会学校保健会との協議会は、専門性を生かした役割を向上させるため、学校と学校、あるいは学校と教育委員会・関係諸機関との間で教育行政の立場で連携を図る研修となっている。

⑤信頼される教育環境の整備

施策１「学校施設・設備の充実」については、伊達市学校施設長寿命化計画の策定では、施設の改修計画について蛍光灯製造中止に対応するため、ＬＥＤ化事業の追加等、実施計画の見直しを行っていくことを今後も継続することを強く期待する。

また、伊達市学校施設長寿命化計画に基づき、改築工事及び施設改修を行うことから、伊達小校舎改築事業、市立学校校舎冷房設備設置事業、伊達中学校校舎等トイレ改修事業が行われた。

施策２「校外安全対策の充実」については、・警察など関係機関と連携した訓練や

指導を行い、児童生徒の交通安全意識や防犯意識の向上を図るため、交通安全教室、防犯教室の実施は、今後も計画的に実施すべきである。

また、登下校交通安全・防犯プログラムに基づき、登下校安全対策推進会議の実施、対策案の検討及び協議関係機関と連携し、合同点検の実施は不可欠である。

施策３「学校再編等の推進」については、引き続き、児童生徒が、望ましい学校規模の中で学び、資質や能力をさらに伸ばしていけるよう、子どもたちの教育環境をより良いものにするために、地域や学校の実情等を考慮しながら、必要に応じての検討を望む。

施策４「高等学校教育等との連携・支援」については、子どもたちや地域にとって魅力ある高等学校を構築するため、連携・支援を行っていくとともに、ふるさと創生教育「だて学」を推進することから、北海道伊達開来高等学校支援補助金、高等学校における地域学習への支援の継続を期待する。

（２）社会教育

①ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進

施策１「こころとふるさと意識を育む体験活動の推進」については、軽スポーツを取り入れ、運動のきっかけづくりと新たな参加者の創出に期待する。

また、各種事業は、つどいサークル「ドロップ」、長生大学、伊達シニアクラブスポーツ少年団等の協力団体のもとに企画立案及び運営には、必要不可欠な団体であるためことから、維持継続し充実した青少年事業の開催を期待する。

さらには、青少年の非行防止等のため、青少年指導センター指導員とともに下校時間帯に合わせた巡回街頭指導のほか、夏季海水浴場キャンプ場、祭典時特別巡回を実施している。また、伊達市教護会等関係機関との諸会議への出席や合同研修会の開催を開催、広域列車添乗補導を実施することは、青少年健全育成に関するサポート体制の充実を図るうえで、重要な役割を担っている。

施策２「交流活動を通じた地域づくりに参画する人材の育成」については、姉妹歴史友好都市シニアリーダー研修交流事業は姉妹都市である宮城県亘理町、歴史友好都市である宮城県山元町、柴田町、福島県新地町と継続実施し、交流を深めながら、レクや共同作業、集団行動を通じてコミュニケーションやリーダーシップの能力向上を図ることで、これからの地域づくりに必要な人材の育成を目指すことは、これからの時代は一層重要である。

②共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進

施策１「生涯にわたる充実した学習機会の提供」については、市民ニーズを的確に把握し、より受講しやすい講座の開設、民間企業などのノウハウを活かした学習内容の充実、サークル団体の会員増や活性化のための広報活動の充実、男女共同参画の推進は、参加人数増や取組内容のニーズに対する工夫は、今後も継続を要する。

施策２「高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出」については、長生大学の事業内容のニーズ把握による学習メニューの充実と積極的なＰＲ強化と高齢者の参画が期待される、コミュニティ・スクールなどの活動内容についての情報提供の工夫を今後も期待する。

施策３「家庭・地域の教育力の向上」については、地域住民が、コミュニティ・スクール等と関わり合いながら子供を育てる地域基盤の強化や、関係機関と連携し、家庭教育に関する啓発活動の実施の工夫を今後も期待する。

施策４「図書館機能の充実」については、「伊達市立図書館運営基本方針」に基づく図書館の機能強化として、新図書館建設に向けて継続した取組を期待したい。

（３）歴史・文化芸術

①特色ある地域文化の推進

施策１「歴史文化資源の活用」については、だて歴史文化ミュージアムの活用の工夫は広く市民からアイデアを聞くなど、身近に感じることを期待する。

また、博学連携の取組として、児童生徒が身近に感じられるミュージアムとなることを期待する。

施策２「文化財の保護と適切な展示保管環境の維持」については、指定文化財の保護対策と指定化の推進と、展示保管施設のモニタリングによる管理は継続していく取組である。

②歴史文化を活かしたまちづくりの推進

主な施策である１～２の育成のため、各担当課係の各推進方策から具体的な取組が確実に進められ、評価をし、達成度評価として示されている。参加人数や回数等の比較については、毎年変動するが、意義のあるものは継続した取組が必要である。

また、子どもたちが文化財に触れる機会の充実は、より身近に感じられる取組になると考える。

（４）スポーツ

①豊かな心身を育むスポーツの振興

施策１「スポーツ活動の促進」については、年齢や経験に関わらず、健康と生きがいづくりのため、誰もが気軽にスポーツに取り組むことができるよう、指定管理者と連携し、各種目の初心者教室等を開催することは、心と体の健康の維持に不可欠であるため、工夫した取組の継続を望む。

また、スポーツ団体の育成と活動支援については、多くの団体や大会への助成、学校開放等の利用者が一層増加することを期待したい。

さらに、地域間や世代間交流を図りながら、スポーツに親しむ市民等が増えることを期待する。指導者の養成と確保は、これからの時代の課題であるため、様々な

取組や意見等を取り入れて工夫することが不可欠である。

施策２「スポーツ施設の整備・充実」については、各施設の状況に応じた管理及び運営内容の充実は必要であると考える。空き状況に応じて、供用することが重要。

また、限られた財源を考慮しての取組とはなるが、施設及び備品の修繕・更新計画の策定を準備していくことは不可欠である。

さらには、指定管理者制度の推進とサービスの向上は常に検討する内容にすることで、利用者の増加につながることをおさえていく必要がある。

令和７年度（令和６年度対象）教育委員会点検・評価報告に関する意見

小　林　浩　路

**１　教育委員会の活動状況**

教育委員会会議については、毎月の定例会において、開催予定日や傍聴の案内、会議録等をホームページに掲載し市民に公開されている。また、定例会の開催に合わせて行われている学校訪問や教育施設訪問では、令和６年度は小学校１校のみであり、入学式・卒業式などの学校行事だけでなく、最低、１年に１回は全小中学校を訪問していただき、各学校や教育施設が抱えている課題の把握や要望等を拾い上げていただくよう期待する。特に、学校訪問では児童生徒の学習参観や教職員との意見交換、星の丘小学校・中学校が抱えている特殊事情、不登校児童生徒サポートハウス「こどもの国フェニックス」で活動している子どもたちの様子や指導員からの意見聴取、更には、社会教育施設では幼児から高齢者まで全世代が活動している様子にも目を向けていただきたい。

**２　「第２次伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価**

（１）学校教育

①社会を生き抜く力を育む教育の推進

確かな学力の育成については、毎年実施している「伊達市学力テスト」の結果等に基づいた授業改善プランの作成とＡＩドリルを活用して、子どもたち一人一人に基礎基本が確実な定着につながるよう努めてほしい。また、これまでの「伊達市教育実践交流・研修会」で積み上げてきた「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進する授業改革に努め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の質の向上に期待したい。

特別支援教育の充実については、通級指導教室や特別支援学級に在籍するすべての児童生徒の成長発達状況等の変化に応じて、具体的な短期目標や長期目標を「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に設定され、日常的に活用する適正な就学措置や効果的な指導に活かされている。また、就学先や進学先等への引継ぎにも活用されており、切れ目のない支援のため、子どもやその保護者に対する教育的ニーズに応じた教育支援が期待される。各学校には特別支援教育支援員や介護員が配置されており、合理的配慮を要する児童生徒に手厚い支援がなされている。今後、更に支援を必要とする児童生徒が増えることが予想されるので、支援員・介護員の増員をお願いしたい。

国際理解教育の推進については、小学校中学年の外国語活動、高学年の外国語科の指導に向けて、小学校教員と中学校の英語科教員が連携を深めて指導力の向上に努めるとともに、複数配置されているＡＬＴとも連携して指導方法の工夫・改善が

図られることを期待する。また、ＡＬＴ等ネイティブスピーカーとの生きた英語を用いた体験活動を行う「だてっ子イングリッシュアドベンチャー」を通じて、語学教育や外国の文化と習慣に接するなどして、異文化理解と外国語への興味関心の高揚が図られることが期待される。また、伊達市学力テストの結果において全国平均を下回っていることから、小学校と中学校の外国語学習の系統性について検討するとともに、小学校の外国語専科教員と中学校の英語科教員とが連携していくことが望まれる。

情報教育の充実については、児童生徒１人１台の端末が配置され、ＧＩＧＡスクール構想に基づく整備が進められ、発達段階に応じたプログラミング教育の充実が図られている。また、臨時休校や学年・学級閉鎖になっても、オンラインで学習ができ「学びを止めない」環境づくり、更には、不登校で教室に足が向かない児童生徒のカウンセリングに活かせる余地もある。反面、情報教育の充実・発展に伴って情報モラルの低下やネットトラブルが心配されるので、情報モラルの指導や情報機器活用のマナーなど、ネットトラブルの未然防止に向けた指導が繰り返し実施されるよう期待されるとともに、情報媒体の紛失など指導者側の不適切な取り扱いにも十分な注意が必要である。

キャリア教育の充実については、全国学力・学習状況調査項目の「将来の夢や目標をもっている」の調査結果が年々下回っていることから、児童生徒個々人が学級や学校での生活づくりに主体的に関わり、自分の良さや興味・関心と照らして、現在や将来に向けて希望や目標をもって生活できるようキャリア教育全体計画に沿った実践化が期待される。そのため、特別活動や総合的な学習の時間を中核として、職場見学や職業体験活動などを通して児童生徒のキャリアプランニング能力の育成が図られるよう、地域とも連携していくことが重要と考える。

環境教育の充実については、すべての学校において、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等を通じて、環境教育に関する学習が継続して実践されており、高い評価を得ている。今後とも、自然体験や社会体験活動を通じて、生命を尊重し、環境に配慮した望ましい行動がとれる子どもの育成を目指し、特に、気候変動による災害、クマ類による人身被害など生物多様性の損失、プラスチックゴミ汚染など、地域の問題から地球が直面している問題に目を向けていけるよう、発達段階に応じた指導のもとで児童生徒の自らの課題としてとらえ、課題解決に向け自分たちにできることを自分たちで考えて行動できる子どもの育成として期待される。

安全・防災教育の充実については、各校の学校経営計画の中で教育活動の一環として位置づけられ、警察や消防署等の協力を得て、防犯教室や交通安全教室、防災訓練等を実施している。また、子どもたちは、有珠山の噴火や津波等を含めた自然災害だけでなく、予測困難な災害にも備え、伊達市が実施している防災総合訓練に地域住民と一体化して参加し実体験している。防犯意識や防災訓練を学校教育の中でとらえ、家庭や地域の中で意識することは、大変、重要なことであり、今後とも

継続して実践していただきたい。

②豊かな心を育む教育の推進

道徳教育の充実については、「考え、議論する道徳」の授業改善や指導に生きる評価に関わる校内研修の充実を図るとともに、自己を深く見つめ、人間としての在り方や生き方、集団や社会との関わり、生命の尊さなどの自覚を深める中で、他者とより良く生きていくための基盤となる道徳性を養うため、道徳科教育の全体計画に基づいて実践されるよう期待される。

生徒指導・教育相談の充実については、教員だけでは解決できない事案が多くなってきており、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を継続して要請するとともに、「いじめ防止対策推進法」に基づき、不登校やいじめ、ネットトラブル、ネグレクトなどの未然防止・早期発見・早期対応に向けた教育相談や生徒指導等、校内体制の充実が重要である。更には、ヤングケアラーや「こども食堂・おとな食堂」を利用している児童生徒・親などについて実態調査をし、子どもたちが置かれている状況の把握や保護者が抱えている複雑な悩みに即して、学校と家庭、関係部署、警察、児童相談所、医療機関等との連携した対応が期待される。

③健やかな体を育む教育の推進

体力・運動能力の向上については、すべての学校で伊達市体力テストを実施し、児童生徒の実態に応じた「体力向上プラン」を作成して指導しているが、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、小学校女子以外は平均を下回っていることから、「体力向上プラン」の見直しと体育科の指導方法の工夫改善が期待される。

食育・健康教育の推進については、安心安全な給食の提供と栄養バランスのとれた給食内容の充実を図り、日本文化や季節の行事を意識させる献立づくりなど、地場産食材を利用した新たなメニューの考案が期待される。物価高騰の影響が食材費にも及んでいるようだが、給食内容の工夫や栄養価の維持、毎月配布されているランチメールや献立メモによる家庭への食育の大切さに関する啓発にも努めていただきたい。更には、栄養教諭派遣指導を継続して実施することによって食育指導や給食指導の効果が期待される。

がん教育や薬物乱用防止教室、性に関する指導の実施については、各学校における教育計画に基づき、保健体育や学級活動の学習として実施されており、また、外部講師を招聘して実施されているがん教室など各種研修講座は児童生徒の将来にとって、大変、大切なことであり、今後とも継続して実施していただきたい。

④地域とともにある学校づくりの推進

地域総がかりの教育の推進については、地域住民や保護者が各校の学校運営協議会に参画することによって、地域とともにある学校づくりが進められ、学校経営や

教育活動が充実したものになることが期待される。また、学校運営協議会委員研修会の開催は、各校の学校運営協議会の取組の充実につながるものとして期待される。

ふるさと創生教育の推進については、小学校から中学校、市内高等学校も含め、すべての学校でふるさと創生教育「だて学」が、発達段階に応じて学習内容を体系化した学習プログラムに基づいて、地域の専門的な知識・技能を有する人材や地域の施設、また、副読本等を活用することによって、伊達市の歴史的風土や伝統・文化等について学ぶ取組が継続して実施されている。しかし、地域や社会への関心を示す割合が目標値を下回っていることから、学習プログラムや学習方法・学習内容の工夫改善を図り、将来、地域のために行動できる子どもたちの育成に寄与する事業かも含めて検証する必要があるものと考える。

異校種間連携・接続の推進については、小学校体験入学や幼稚園、認定こども園、保育所など、就学前の幼児を中心とした未就学児と児童との交流活動を行って教育活動の円滑な継続がこれまでも伝統的に実施されている。小学校と中学校との連携においても、中学校区を基本とした児童・生徒の交流、異校種間の教育課程の接続や児童・生徒に関する引継ぎ、指導方法に関わる研修会を行うなど、様々な方法によって円滑な接続が図られている。更には、小・中学校と市内高等学校との教育活動上の連携、教職員の指導方法等に関わる交流や情報交換が推進されており、今後とも、効果的な接続が継続して行われていくことが期待される。

幼児教育の充実については、就学前の幼児がスムーズに小学校や義務教育学校前期課程で円滑に学校生活が送れるように、市内の幼稚園、認定こども園、保育所の年長児が交流する「アプローチカリキュラム」が実施されている。また、小学校や義務教育学校前期課程入学後も学校生活に適応できるように、生活科を中心に学科的・関連的な指導や弾力的な時間割を設定するなど、指導方法の工夫や指導計画を見直しながら実施する「スタートカリキュラム」は、子どもたちの負担軽減や保護者の不安解消にとっても効果的な取組として、今後も、幼保・小中の連携体制が構築され、接続の課題を把握し、工夫・改善されながら継続されていくことが期待される。

教職員の資質・能力の向上については、「伊達市教育実践交流・研修会」を開催し、各校の取組に共有できる場として定着しており、高い参加率を維持している。また、養護教諭、栄養教諭、事務職員等の研修会では、専門分野の研修内容とともに、事前に研修テーマを設定し、テーマ内容を把握し課題を共有化して研修会に臨むなど、参加者の資質の向上につながる研修会として継続されていくことが大いに期待される。

⑤信頼される教育環境の整備

学校施設・設備の充実については、国の補正予算等を積極的に活用し、新規・継続の改修事業が推進されており、今後、伊達市学校施設長寿命化計画に基づき、各

学校施設の現状を十分確認するとともに、長期的な展望に立って施設・設備の充実に努めていただきたい。また、近年の気候変動による夏季の熱中症対策として冷房設備が設置された。更には、令和９年中に蛍光灯製造の中止に対応するため、ＬＥＤ化事業が計画的に進められるよう期待される。

校外安全対策の充実については、登下校安全・防犯プログラムに基づき、必要に応じて警察など関係機関と連携しながら交通安全教室や防犯教室が実施されており、児童生徒の交通安全意識や防犯意識の向上が図られている。また、通学路の安全対策については、関係機関と連携して行なわれている合同点検及び登下校安全対策推進会議等を開催して、校区の危険個所に関わる協議等を継続して実施していただきたい。

学校再編等の推進については、令和５年度で学校再編は終了したが、学校の統廃合後も、子どもたちが学校生活を仲良く生き生きと送れるように不安や負担を取り除き、保護者や地域の意見等に寄り添っていただきたい。また、登下校時のスクールバスの乗降前や下車後に事故がないように十分な注意を払っていただきたい。

高等学校教育等との連携・支援については、道立学校の取組に対して、市が評価することがそぐわないのは当然のことであり、評価項目から除外した方がよいと考える。しかし、道立高等学校に対して、海外見学旅行や海外留学、予備校連携講習等の支援による学力・学校力の向上のための補助金として市民税が投入されていること、開来高校生による市立学校との連携（出前教室）や地域貢献活動等の取組が進められていること、更には、ふるさと創生教育「だて学」推進事業に予算付けがなされ、市外から通学する道立高等学校のカリキュラムに地域学習を組み入れることに疑義が残り、今後、見直しも含めて総合的に検討していく必要があると考える。

（２）社会教育

①ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進

こころとふるさと意識を育む体験活動の推進については、子ども同士や親子、世代間交流事業を通して、青少年の健やかな成長と社会性を養う上で大変重要であり、参加者も増加していることは望ましい傾向にある。引き続き、サークル団体等の協力を得て、子どもたちが興味を持ち、保護者の関心やニーズに視点を当てるなど、工夫と体験学習機会の拡充に努めていただきたい。また、青少年の非行事故防止等のために青少年指導センター指導員と実施している巡回街頭指導，海水浴場キャンプ場の巡回、祭典時の特別巡回、広域列車添乗補導等は、大変重要なことである。更には、伊達市教護会等との諸会議への出席や合同研修会を開催して、青少年の健全育成に関するサポートに努めていただきたい。

交流活動を通じた地域づくりに参画する人材の育成については、姉妹歴史友好都市と伊達市のシニアリーダーが一堂に会して情報交換や交流を進めている。リーダーとしての資質の向上を図るリーダー養成研修では、シニアクラブの団員数が減少

しているため、伊達開来高校から募集して実施したが、リーダーシップを発揮するための貴重な体験であり、これからの地域づくりに必要な人材の育成の要素を担っている。少子化にともなって青少年団体が減少している中で、青年団体「伊達フェバリットクラブ」の協力を得て、自分たち自らが「伊達市二十歳（はたち）を祝う会」の実行委員会を組織し、企画立案し運営するなど、次代を担う青年たちが成長していくことを大いに期待する。また、異世代間交流事業「あそびましておめでとう」では、子どもと保護者を含めたおとなの数も増えたことから、企画内容の工夫によっては活発な異世代間の交流が期待される。

②共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進

生涯にわたる充実した学習機会の提供については、各講座終了後にアンケート調査を実施し、市民の学習ニーズを反映した多種多様な講座や講演会が企画され、受講者も順調に増加している。また、民間企業やカルチャーセンター指定管理者等と連携し、人気のある講座を連続して実施するなど、民間ならではの柔軟な事業を行って好評を博している。市民総合文化祭や市民サークルまつりなどの事業では、広報紙や市のホームページの活用、ポスターやチラシ配布など、市民への周知方法の工夫・強化に努めてほしい。男女共同参画教養講演会では魅力ある講演講師を選定し、胆振女性リーダー養成研修では、参加を促進するため広報紙等による開催県や研修フォーラムの内容を早い段階から周知しておく必要がある。

高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出については、近年、高齢者の就労が増加し、長生大学への入学者が減少し、在学生の転居や疾病、死亡などにより減少傾向が続いている。学生数確保のためには、広報紙等による積極的な募集活動と在校生の学習ニーズを把握して、講義内容の充実を図っていくことが重要と考える。たとえ学生数の減少傾向が続いても、長生大学が継続して運営されていくことが期待される。

家庭・地域の教育力の向上については、家庭の教育力の向上につながるような講演会や講座を開設し、若い世代が安心して子育てができるような地域づくり、つながりづくりに結びつくような施策が期待される。

図書館機能の充実については、新図書館の完成に向けて「伊達市立図書館運営基本方針」に基づき、図書館本来の本の閲覧や貸出業務、読書活動が推進されるよう、あらゆる市民が足を運びたくなるような多様性に富んだ施設設備の充実に向けて、インスタグラムからの情報発信、飲食実証実験、イベントスペースとグループ学習スペースを兼用して使用するための工夫、開館時間の延長など、様々な新規事業を取り入れるための協議や準備が行われている。幸いにも、来館者が増加しており、更に、利用者のニーズに合わせた図書資料の整備や利用者が滞在しやすい環境の整備が期待される。

（３）歴史・文化芸術

①特色ある地域文化の推進

文化芸術活動の振興については、芸術性の高い舞台鑑賞機会を安価で市民に提供することを目的として、伊達市・室蘭市・登別市の３市で行っている西いぶり定住自立圏文化事業を実施しているが、だて歴史文化ミュージアムを活用した美術展覧会が開催できず鑑賞人数が減少したため、今後、文化団体や関係団体と連携し、多世代にわたり文化芸術に触れる機会が提供されることが期待される。また、市内すべての小中学生に優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供する巡回小劇場は、芸術的な素地を養う上で貴重な体験であり、引き続き、財政面での支援をお願いしたい。

②歴史文化を活かしたまちづくりの推進

歴史文化資源の活用については、だて歴史文化ミュージアムを活用した特別展や企画展を開催し、市民や観光客等にその価値を理解してもらうなど、文化資源の保護につながる施策が取られている。１階のラーニングスタジオや藍染などの体験学習館には多数の来館者があり、また、アンケート調査でも満足度が高く、今後さらに、来館者数や満足度の向上を目指し、指定管理者と連携を図りながら展示室の定期的な展示替えや展示資料の活用に努めていただきたい。

文化財の保護と適切な展示保管環境の維持については、史跡北黄金貝塚の景観保全に努めるとともに、指定文化財については、市文化財保護条例に基づく適切な対応に努め、特に、文化的な価値が高く、保護することが必要と認められる物件は市の文化財審議会に諮問し審議することが必要である。また、子どもたちが文化財に触れる機会を充実させるために、市内各小中学校と連携し、史跡北黄金貝塚やだて歴史文化ミュージアム、伊達市噴火湾文化研究所の解説や文化財に関する出前授業を行って文化財保護意識の啓発を図っていただきたい。

（４）スポーツ

①豊かな心身を育むスポーツの振興

スポーツ活動の促進については、健康と生きがいづくりに向けて、誰もが気軽にスポーツに取り組むことができるよう指定管理者と連携し、各種目の初心者教室等を開催して、着実に参加者数が増加している。また、競技スポーツに限らず、モルックなどのニュースポーツの普及や各種スポーツ・レクリエーションを楽しめる機会と活動環境の整備・充実を図るため、スポーツ少年団本部や地域体育振興会と連携協力していくことが大切である。更には、青少年期の適切なスポーツ指導や個々の心身の発達に合わせた適切な指導が行われるようなリーダーの養成やスポーツ指導者の育成とともに、スポーツ少年団活動への支援や少子化で単独では活動が難しい地域部活動への支援が必要である。

スポーツ施設の整備・充実については、市民による活発な施設利用と指定管理者

の自主事業の実施により利用者が増加している。また、利用団体の空き時間帯を他の希望団体に施設を開放するなどして、市民への有効活用に寄与している。また、施設ではバドミントンラケットのガット交換やソフトクリームの販売など、利用者へのサービス向上に努めている。今後、指定管理者と連携して、スポーツ施設の修繕・更新計画を作成し、施設の老朽化への対応のため、施設運営管理費などの十分な予算付けを行って、施設の維持・管理に努めてほしい。

令和７年度（令和６年度対象）教育委員会点検・評価報告に関する意見

澤　野　幸　司

**１　教育委員会の活動状況**

概ね計画的かつ必要な事項について議案が付議され、事務局が整えた資料を基に審議が進めらていることが理解できる。特に伊達市立図書館の基本設計や整備等については、かなり委員協議会で複数回に渡り慎重かつ熱心な議論が展開されたと理解できる。その委員協議会での議論を踏まえ、定例会にどのようなことが付議され、教育委員会として方向性を示したのかが見えてこない。伊達市にとって重要な施設でもあり、その施設をどう活用するかについては、図書館関係の運営規則等の規則の改正が必要になり、その議論にどのように影響を及ぼしたかが市民に見えるようにすることが重要であると思料する。

報告書のＰ８、②については、学校教育の現状を把握する上で、教育委員が学校訪問を行うことは大変有益であると思う。こうした定例的な学校訪問以外にも、教育委員が自主的に学校に出向き、肩肘の張らない形で、学校の管理職のみならず、児童生徒や保護者、教諭等の学校職員とコミュニケーションを図ることは大変意義深い。是非、今後も自主的な学校訪問を進め、そこで感じた課題や施策の成果等を、定例会で共有することも必要であると感じた。

今回の点検・評価の中に、定例会への傍聴者の人数等が示されていない。開かれた教育委員会を目指す上で、定例会でどのような議論が行われ、そのような審議の結果が生み出されているかを市民に理解していただく上で、議事録の公開を丁寧に行っており、その点は高く評価できる。今後、それに加え傍聴者の人数を示すなど、多くの市民に開かれた情報公開を行うことが望まれる。そのことで、教育委員会に対する信頼も増すものと思料する。

さらに、今後この点検・評価に関することで期待したい点がある。こうした教育委員会の点検・評価がどのように活用されていくことが望ましいのかという点である。教育委員会の教育施策について、市民目線で評価し、次年度の教育行政運営に資するために行われるべきものである。その点から指摘すると、この報告書の内容からだけでは評価の根拠を示すことが極めて難しいと感じた。外部評価委員と事務局もしくは教育委員とのやりとりの中で、その教育施策の意義や課題等を浮き彫りにし、市民目線で「もっと予算をつけるように市長に求めてほしい。」「この政策を具現化するためには職員の専門性が必要である。」といった提言を盛り込むことが、重要であるように感じる。この点検・評価が法律に基づいて行われるものであるだけでなく、真に伊達市民にとって意義のある未来につながる点検・評価につながるような機会になることを、強く思料する。

## ２　「第２次伊達市教育振興基本計画」に基づく管理及び執行状況の評価

（１）学校教育

①社会を生き抜く力を育む教育の推進

確かな学力の育成を目指して２つの取組みを行っているが、その成果指標として全国学力・学習状況調査の質問紙調査からのみ取り上げている。実際の学力調査の結果についても、示してほしいし、それ以上にこうした調査結果を受け、２つの施策を学校がどのように受け止め、どのような取組を行っているのかが、市民には重要であると思料する。この点については、前述した教育委員による学校訪問（定例・自主）による聞き取りも重要になる。その視点で考えると、単なる授業改善のみならず、教材や教育環境等の異なった視点からの学力向上へのアプローチ等も見えてくると考える。そのためには学校の管理職はもちろんだが、直接児童生徒の指導に当たる教員のマインドセットも必要な施策になる。そうした意味で、教育実践交流・研修会の内容や運営等について、専門家による指導助言も必要である。

特別支援教育については、充実した取組を行っているように感じる。ただ、100％の達成率がある項目については、新たに次の目標を設定し、更なるブラッシュアップを目指しても良い。

国際理解教育の推進（この項目でよいのかという懸念もあるが）では、外国語の平均点が全国平均を下回っているという点についての対応が、前年度と同様の指導方法の工夫改善に留まっている点が気になる。外国語学習における教員の力量は児童生徒の学力に、他の教科以上に密接に関わっており、指導力不足による学力低下が引き起こされているのであれば、単なる授業改善のみでは、同じことが繰り返される可能性が高い。外部リソースの活用等の手立てを講じる必要がある。

キャリア教育の充実については、取組内容が抜きん出て多いことから、伊達市教育委員会として重要な施策だと思料する。その評価指標が、全国学力・学習状況調査の質問紙調査「将来の夢や目標を持っている」のみで評価しているが、それで正確に学校や児童生徒の状況が把握できているのか疑問である。この指標によるとここ数年肯定的な回答をする児童生徒が減少傾向にあるが、これだけの施策に取り組んでいる中で、果たしてそうなのか疑問である。学校もかなり意識し、教育委員会の重点施策を理解し、学校運営を行っているはずであり、その施策の反映が学校の教育課程に反映しているはずである。市民にとっては、学校と教育行政の一体となった取組が、目に見えることで、保護者や地域住民、産業界にとっても伊達市の教育に期待を持つ機会になるのではないか。

安全・防災教育については、特別支援教育同様達成率が 100％達成していることから、目標設定を変えていくことが望ましい。

②豊かな心を育む教育の推進

道徳教育の充実については、中学生の肯定的な回答が増加している点が評価でき

る。このことは、中学校における道徳の時間の授業改善が進んでいることが理解できる。施策として校内研修を充実させることに重点を置いたことが功を奏していると考えられ、中学校に道徳教育について専門性の高い教諭が配置されてることも要因として考えられる。是非、こうした中学校における成果を、小学校や家庭教育と連携されるような発展的な取組にも期待したい。

生徒指導・教育相談の充実についても、不登校率が全国平均値より低いことからも、ＳＳＷの配置や学校の取組が連携できていることを感じる。コロナ禍で発達課題をクリアできていない児童生徒が一定数存在すると考えられる中で、今からでも様々な手立てをとることで、こうした誇るべき成果を維持できるものと思料する。

③健やかな体を育む教育の推進

体力・運動能力の向上については、まず「なぜ小学校女子児童の結果のみが常に全国平均を上回っているのか」について詳細な分析が必要である。児童生徒の生活習慣が、従来から変化する中で、児童生徒の体力向上にかかる学校教育の役割は重要である。体力向上プランに基づく取組が、果たして児童生徒の体力向上に繋がっていないとなると、運動の生活化に向けた、地域社会との連携は重要である。部活動の地域移行のこともあり、この点についてはこれまで以上に精緻な教育施策の立案実施が求められる。

食育・健康教育の推進における栄養教諭による食育授業派遣事業の取組が成果を上げつつあることが、今後の成果につながる起点になると考える。ややもすると栄養教諭に任せっきりになりがちな学校風土がある中で、学校全体で食育をどのように進めていくか、学校管理職の手腕が試される。日常の生活における食育も絡めて、家庭教育との連携は重要である。そうした取組のハブになるのが栄養教諭だと考えると、栄養教諭のみに頼るのではなく、行政における保健師等との連携も視野にいれるとよいと考える。

④地域とともにある学校づくりの推進

地域総がかりの教育の推進については、「学校支援地域本部などの学校支援ボランティアにより、保護者や地域の人が教育活動や様々な活動に参加してくれる」と回答した学校の割合をもって、評価ができるのかが疑問である。コミュニティ・スクールを基盤とした学校運営協議会の重要な役割として、学校ガバナンスへの関与である。地域学校協働活動は実働として、学校運営協議会で承認された目標や重点事項に沿った実働の組織である。地域とともにある学校づくりを行う上では、学校運営に地域住民が参加する意識を問うことで、その浸透状況を測ることができる。そうした視点で考えた際に、この指標のみで達成度をＡとすることには違和感がある。

ふるさと創生教育の推進に関しては、「だて学」学習プログラムの構築に力を入れていることが十分理解できるし、その成果指標についても的確であると考える。こ

うした新たな学びを創出するには、指導する教員が伊達市について理解するとともに、前述の学校運営協議会等での議論が伝わることが重要である。まさに、仕組みと子どもの学びをつなげていくことが求められる。こうした視点で、地域総がかりの教育の推進の取組とも連携させながら進めてほしい。

異校種間連携・接続の推進や幼児教育の充実では、評価指標が実施の有無もしくは回数になっており、その目標はいずれも達成しており、次は内容の充実に向けた目標の設定や取組の充実が求められる段階になっている。再度目標設定に向けた学校園所との協議が必要だと考える。

教職員の資質・能力の向上の評価指標も参加率になっているが、勤務時間での参加率であれば100%に限りなく近づくはずである。よって、研修実施前に、教員のどのような資質・能力を向上させたいのかを明確にし、その上で研修内容や方法を工夫することが求められる。ＮＩＴＳでも子どもの学びと教員の学びは相似形であるという考えを打ち出しているが、まさに教職員の研修の先に、どのような学校運営や教科指導等の変容が求められるか、次の段階に来ているように考える。

⑤信頼される教育環境の整備

学校施設・整備の充実については、限られた予算の中で、国の補助事業等を活用しながら計画的に整備充実が図られていることが理解できる。特に、本年度のような異常な暑さ対策として空調整備について考えていく必要があるが、ランニングコストのこともあり、かなりの予算が必要になってくる。そのように考えると、学校が単に児童生徒の学びの場だけでなく、避難場所としての施設であったり、生涯学習の場であったりと、複合的な機能を持たせることで、市民の理解を得ることも必要だと思料する。そのためには、学校が真の意味で開かれる必要があり、地域とともにある学校づくりの文脈からも検討が重ねられることが望まれる。

高等学校教育等との連携・支援に関する評価が「道立学校の取組に対して、市が評価することはそぐわないことから、評価不可とする」とあるが、北海道伊達開来高等学校支援補助金に19,158千円、ふるさと創生教育「だて学」推進事業に403千円、市費として支出している以上、市民に対してその取組について、目的に照らし評価することは、行政の説明責任である。道立学校の教育を評価するのではなく、補助金がどのように使われ、伊達市民にとってどのような成果があるかを、適切な評価指標を立て、評価すべきである。

（２）社会教育

①ふるさと意識を育て地域づくりに参画する青少年教育の推進

こころとふるさと意識を育む体験活動の推進では、大きな成果を感じる。100名以上も参加者が増えた原因としては、事業の回数を増やしたことも重要だが、内容が参加する子どもにとって魅力的なものであったと思われる。学校教育では経験でき

ない体験を、社会教育が担うことは、学校教育におけるふるさと創生教育との関連もあり、伊達市の子どもにとっては有益であると考える。コロナ禍でなかなか社会教育関係の事業が進められなかった時期があったことで、指導者等へのダメージも大きかったと思われるが、交流活動を通じた地域づくりに参画する人材の育成では、次世代のリーダー育成にも目を向けており期待がもてる。育成しようとするリーダーが、前述の体験活動事業でも活躍する機会を設けることで、より意識を高めることにつながるのではないかと考える。

②共に支えあう地域づくりを目指す社会教育の推進

生涯にわたる充実した学習機会の提供では、市民講座・市民カレッジ受講者数が倍近く増加している。このことは、指定管理に委託することでより市民のニーズに沿ったコンテンツが準備できたことが想像できる。また、今後の方針に示されているように、若い層の市民に対するニーズを把握し、その層をターゲットにしたコンテンツを充実させることで、まちづくりへの誘いにもつながると思われる。逆に、高齢者が健やかで豊かに学ぶ機会の創出については、長生大学事業のこれまでの高齢者に対する貢献は感じるものの、新たな展開を考えていく必要性がある。今後の方針にも示されているように、事業のスクラップ＆ビルドの視点や融合の視点で、検討を重ねる必要があると考える。その際、伊達市社会教育委員と教育委員との合同協議の場等を設け、生涯学習や社会教育を進める上での課題を整理し、議論することも必要である。「１　教育委員会の活動状況」でも述べたように、委員協議会での話題にしても良いように感じた。

家庭・地域の教育力の向上については、特に家庭教育の充実が求められる。学校における家庭教育学級等への参加される保護者の方は、意識の高い保護者であり、社会教育が主催する学びの場にも積極的に参加する方が多い。重要なのは、なかなか子育てに悩みを抱えながらも、このような学びの場に誘えない保護者への手立てである。このことは伊達市のみの課題ではなく、多くの自治体が抱えている課題でもあることから、福祉部局とも連携しながら、研究を重ね事業構築を目指してほしい。

図書館機能の充実については、令和８年度オープンを目指し、鋭意ハード面ソフト面の充実を図っているように感じる。市民にとっても高い関心があると思われるので、是非、多くの市民の願いを把握した上で、ソフト事業の充実にもつなげてほしい。

（３）歴史・文化芸術

①特色ある地域文化の推進

文化芸術活動の振興については、幅広い層の市民に文化芸術活動を楽しんでもらう取組が計画され、一部実施できなかった事業があるものの、概ね計画通りに進ん

でいるように感じる。ややもするとこうした事業は軽く扱われたり、一部の市民のみが興味をもつものであったりするが、伊達市では幅広い層にアプローチしているように感じる。ただ、こうした文化芸術の振興は、草の根で活動している方々にスポットライトを当てることにより、より幅広い活動の広がりも期待できる。息の長い取組になるが、アウトリーチ活動に力を入れる事業もあってもよいのではないか。そのためにも専門的な知識やスキルを有する人材を発掘することも必要である。

②歴史文化を活かしたまちづくりの推進

歴史文化資源の活用や文化財の保護と適切な展示保管環境の維持については、ほぼ目標を達成しているように感じる。特筆すべきこととして、いずれも学校教育との連携を図っている点である。前述の学校教育におけるふるさと創生事業等とも絡むと思われるが、「だて学」に適切に学習プログラムとして、だて歴史文化ミュージアムを活用した社会科の授業展開や総合的な学習の時間を活用した発展的な学びの場を提供できるコンテンツを、どう活用するか生涯学習課と教育部指導室が連携する必要があると思料する。そうした視点で評価指標を構築することにより、より事業の成果が豊かに見えてくると考える。

（4）スポーツ

①豊かな心身を育むスポーツの振興

スポーツ活動の促進については、概ね目標を達成しているように感じる。幅広い層の市民がスポーツ活動を通して、豊かさと健康促進を目指している様子が窺える。特にニュースポーツの普及にも取り組んでおり、幅広い層の市民が同じスポーツで楽しむことができることが、ニュースポーツのよさであり、持続可能な取組だと言える。今後、ユニバーサルな視点でのパラスポーツ等への取組についても視野に入れることで、より幅広い市民の交流の場が創出できるように感じる。

部活動地域移行補助金として 20,146 千円が支出されている。今後の地域スポーツにとっても大きな変革をもたらすものと考える。その成果と課題についても整理しておく必要があるように感じる。今後、評価指標の構築を含め、市民の関心も高まると考えられるので、しっかりと点検・評価していただきたい。

スポーツ施設の整備・充実についても、前述のスポーツ活動の促進と関連して目的を達成しているように感じる。スポーツ施設の管理運営は大変な労力が必要であるが、スポーツを楽しむ市民の安心・安全を担保する上では重要な業務である。委託先との綿密なコミュニケーションや意思疎通は今後も引き続き継続することを願いたい。